

19-306
1173 / 25

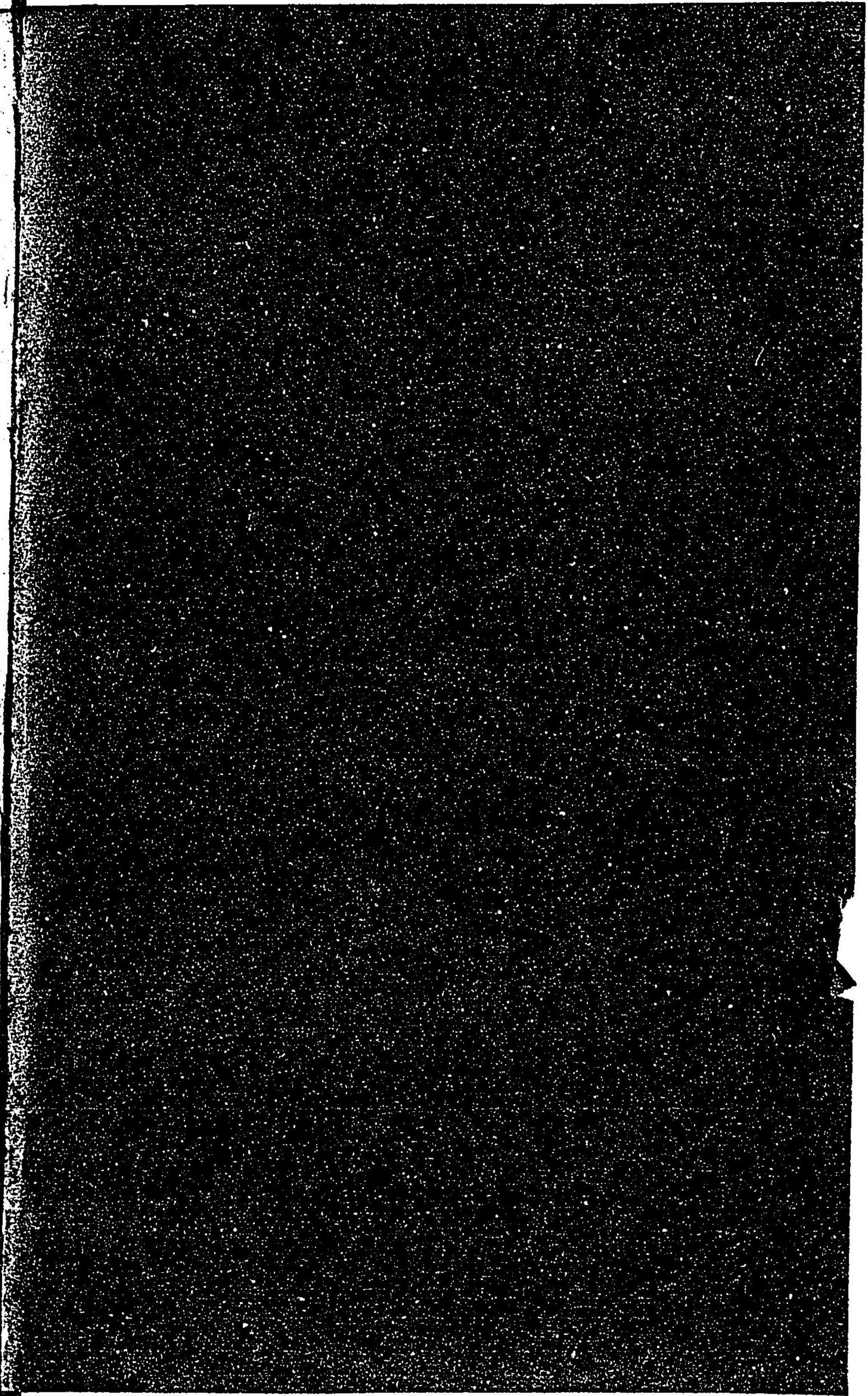


宗
教
哲
學

米國哲學博士ラット講演



福
音
社
發
行



宗教哲學序

余曾てラッド教授の著書を読み其哲學上よ於ける深
遠なる思想と其宗教上よ於ける精確なる識見と服し
一たび氏の罄咳に接し親しく教を受けんと欲する茲
よ年あり今や幸よして氏の來遊せらるゝに遭ひ大に
年來の希望を満たすを得たり顧ふよ十數年間よ涉れ
る研學實脩の餘よ出でたる立奥精緻なる氏の講演ハ
獨り吾人基督信徒の宗教的意識を發揮し信仰上の根
據を固うするのみからん幾多懷疑者の迷霧を排し翻
然開悟せしむるものあるを信ぜ然り而して親しく氏
の講演を聽聞せし者ハ言論以外よ於て其高貴活達を

るペルソナリチーを通して溢出し來たる一種云ふべ
からざるの妙處を味ひしからん實に氏が信仰よ憑り
て養成せし高潔洗ふが如きの心事と春風湧くが如き
の徳性とは知らず識らざるの間よ活ける基督を現出
し吾人をして欽慕措く能はざらしむ今講演筆記を版
よし之を世よ公よするよ當り福音社主人の請よより
聊か所感を記し以て卷端よ加ふ

八月上浣

於須磨浦 蘇溪 宮川經輝識

緒言

本篇の夙よ故新島總長出身のアントンバ神學校を卒業し後
諸處に牧會或の教授の勞を取り目下米國の哲學界よ芳名
噴々たるエール大學の哲學教授シ、チ、ラッド氏が去六
月の中旬京都同志社の特聘よ應じて來日せられ同校の公
堂に於て毎朝一時間宛前後十二回に亘て演せられたる講
義の筆記なり筆者の同志社の淺野源次郎古谷久綱の兩
君にして筆記詳密文章亦難澁ならず唯其論旨の深邃なる
或の普通讀者の満足を買ふ能はざるも苟くも學問よ志し
殊に哲學宗教等よ傾意する有爲青年の之を讀んで裨益す
る所尠少ならざるべし且此筆記の終始通譯の勞を取られ
たる同志社教授浮田和民氏の懇切なる校閲を経たれば其

事實は於て誤謬なく其用語は於て欠妥ならざるの我等の
 信する所なり我等其世を益すると大なるを信するが故に
 大坂福音社の今村謙吉氏より上梓の事を計りしより同氏奮て
 出版の勞を取られたり此故に此篇の世より出づる實は淺野
 古谷浮田今村數氏の賜なり之を讀んで多少の裨益を感ず
 る者の此數氏より感恩の情なからざるべからず聊か本篇の
 出版に至りし經歷を記して緒言より代ふと云ふ

明治廿五年八月上澣 同志社文學編輯員某

目次

第壹回 哲學の定義及び諸科學との
 關係(上)……………一

第貳回 哲學の定義及び諸科學との
 關係(下)……………十二

第參回 宗教哲學、上帝の實在……………二十二

第四回 上帝の性質(上)……………三十二

第五回 上帝の性質(下)……………四十五

第六回 上帝と世の關係……………五十七

第七回 神の顯現……………七十一

第八回 奇跡……………八十四

第九回 インスピレーション……………九十六

第十回 人間の性質……………百八

第十一回 宗教上の生活……………百十八

宗 教 哲 學

エール大學教授
 哲學博士
 ラ
 ツ
 ド
 講
 演

第 壹 回

哲學の定義及び諸科學との關係(上)

余の先づ同志社とエール大學の間に親密なる關係を生じたるを祝す
 貴校教員諸君中にも我が大學の卒業生あり我が大學に於ても貴校教
 員の勉強しつゝ、あるものあり又故新島君アンドウアにありて基督教
 信徒の表白をせられたる時恰も余の同校に在りき今後永く諸君の記
 憶に存せられんことを希ふ

余が當地の宗教哲學講義の先づ拾一二回にして最初の二回の之を緒

宗 教 哲 學

論となし他の眞神の存在其の本体屬性インスピレーション[其他宗教
 上道德上の講話を試んと欲す然れども諸子の注意を請ひざる可から
 ざる一事あり余の此の講義中常に理性(Rason)なる語を最も廣き意味
 即ち人間の美妙上道德上殊に宗教上の感情をも含有せしめ之れを訴
 へ判定せんと欲す
 而して今日の先づ哲學の定義性質及び諸科學との關係を述べ可し之
 れ哲學の總名にして宗教哲學の其の最要の一部冠冕とも謂ふ可きも
 のなればなり
 哲學との何ぞやなる問題の之を解釋する固より種多の方法あるや必
 せり之を歴史に訴へ古來大家の本分性質を研究し之を思想に訴ふるも
 可なり即ちプロト、アリスト、デカート、ロック、スペンサー、ウン
 ト等の諸家を研究するも可なり然れども歴史的研究のみにての甚し

宗 教 哲 學

き混雜を生ず可し之れ諸家と雖も諸説紛々哲學の果して如何なるも
 のなるやを明しする能はざればあり故に諸説の異なるを奇貨とし哲學
 を嘲弄する如きは余の取らざる所なり見よ各科學に於てすら一とし
 て完全無缺の定義を有するものなきは非ずや例へば數學の如き物理
 學の如き未だ嘗て一定の定義を有するものなし教科書への往々其の
 定義を開卷第一に掲ぐるも其實定義なるもの研究終極の結果なる
 を以て始り出す可きものにあらざるなり哲學亦然り其の定義の進歩
 と共に完全なるに至らん
 然らば之を思想界に訴へ自己の斷定に任せんか之れ亦正確なりと云
 ふ可からず如何となれば歴史を措き主觀的研究の結果の只大体に關
 し抽象的に止るを以てなり故に余の先づ歴史を概述し次に批評的に
 諸家の研究せしもの、中より永久不變の眞理を採萃せんとす之れス

ペンカー氏の所謂真理の靈魂(The soul of truth)なるものにして之を爲すに當て余輩哲學者は凡て自由思想家(Free Thinker 善の意味にて)たり自己の思想を自由使用し諸學說中の眞偽邪正を分別し人間理性の中にある神聲(Voice of God in human reasoning)を人聲中より分析選抜せんとす夫れ哲學の定義も就き四個の注意す可きものあり

(1) プレトール 哲學者中の大哲學者希臘のプレトールの所説の近世の歐洲哲學は大關係を有するものなるが同氏の説に依れば眞誠絶對の智識の神に屬す之を研究するの哲學の本務たり而して此の眞誠絶對の智識との最良の意味にて學(Science)と云ふ原語なり故に其の目的たる事物の内も存する終極の智識本源の智識實存の智識一定不變の智識を求むるに在り之を愛するを *Eros* と云ふ愛或の戀の意にして智識を烈火の如くなりて愛するの謂なり之れ必ずしも基督教的思想なら

宗 教 哲 學

すと云ふを得ずオーガスタンの著書 Confession に云ふや My soul is on fire to know と

又プレトールが人類が道理性實存者たる間の思想感情の上に於て一定の基本本源を定るは甚だ必要なることを切言せり以上實に之れ哲學の目的の一部なりとす

(2) アリストートル 至ての哲學を一般科學と同視せり同氏の科學を區別して理論的と實際的の二部となす數學物理學神學等の前者に屬し天文地理等の後者に屬す固より科學の進歩したる今日より是等の定義に異論あるや明なり然れども其の内に第一哲學即ち *Metaphysic* 本源眞理學なるものあり之れ本源眞理を研究するの哲學の一大目的なればなり此の内に實存又の實存の一致等の如きものを發見す此の点のプレトール及びアリストートル以來多少哲學者の思想中も存せ

宗 教 哲 學

しも

(3) カント によ至て一新思想を増加せりカントの今より僅かに百有余年前奇代の名著純理辨論(Critique of pure reason, 1781)中よ哲學との人類智識を批評的に研究するものなるを説けり即ち人類は眞理を知り得るや人類の智識は誤なきか夢に非ざるか眞誠の智識なるものありや吾人の意に於て我及び彼のみならず凡て人類に於て眞誠なりと云ふ實存よ達するを得るや等の諸問題を出すに至り其の可否如何よ依ての天帝の存在をも是非するよ至るを以て其の關係する所大なるや明なり之を要するに歴史に顯はる、哲學の要点のフロトの道理に従ふとプリストートルの本源眞理カントの人智批評的研究等よして人類の短命なれども苟も神の思想の幾分を有するものなればケフラーが天体運行の三大法則發見の當時の我の神の後を逐ふて神の想を思ふ

と云ふ如く道德上及宗教上よ於て亦然するを得可きや否や等又批評的よ攻察せざる可からず

(4) 古來の哲學と諸科學殊に心理學との關係甚だ空漠なりしもカント出づるに及んで之を明よし近世諸科學の進歩益速かに哲學よ影響を及し哲學亦發達し科學に影響を及ぼし兩々相對して完全なる定義を定むるに大利を興へたり即ち哲學の諸科學の前よ甚だ謙遜にして物理學にも天文學にも地質學にも凡て其の研究の材料を仰ぎ殊よ心理學よ對しての非常なる關係を有し殆んど其の區分をも知る能はざるが如き感ありしも二十五年同學非常の進歩よ依り實驗的研究法を應用するよ至ての哲學に關係する殊に大なるを覺ゆ然れども科學の哲學を代表する能はず科學者若し哲學上の意見を吐く時の其人既に科學者の地位を脱するものと云はざる可からず而して其の意見の當否

の其の科學者たるの價值如何にあらず其の抱擁する哲學の善惡如何
 あり且つ人は皆或る意味に於て哲學者なり之れ人の人たる所以
 して科學のみよて満足す可きにあらず

換言せば哲學の實存在を研べ不變を求め凡そ人類理性を一致統合せし
 め之れに依り智識を成立せしむ即ち理性の有無に依り物質觀念上
 一大差違を生ず例へば獸類の決して日用の器具も人類の見る如く
 ならず之れ人類の本源眞理を事物に注入して知覺すればなりスペン
 サの言の如く科學の半統合し哲學の全く統合す之れ哲學の宇宙合
 体の一致を發見すればなり

一般科學の眞理を假定して種々の現象を説明す例へば人間の智識の
 力ありや否やは是れ科學の問のざる所なり物理學者の只は事物の現象
 及其の秩序を顯のすものなれば同學者よ就て吾人の見るもの果し

て實存するものなるやと問の必す哲學者よ行けと答ふるか若し又
 之れに答ふれば夫の既に物理學を離れ哲學者の資格にて答ふるもの
 なり又天文學よて空間ありと假定して説くも空間との果して如何な
 るものなるや是れ客觀的に實存するや否やと問の天文學者之れよ
 一言の答を爲す能はず此よ至て知るを得可し科學の諸説の悉く假定
 の上にあるとを故よ此の根底に疑を起さば科學の一日も存す能はざ
 るなり

而して哲學と實際との關係の如きの其の密切なる火よりも明けく若
 しプロトの所謂智惠なるものにして人類日常の言行上にて關係あ
 るものとせば其の意自ら明ならん獨の哲學者フヒターの曰く各人の
 擇ぶ哲學の其の人物如何に關すと余も亦云ふんとす人物如何も亦哲
 學如何に關すと

今又心理學を除き他の諸科學と哲學との關係をカントの所謂批評的に觀察せんは科學の哲學と同様非常の進歩を爲せしも其の定義及び區域に於て未だ完全なる能はずして通常智識或は技術と區別する能はず

夫れ人類の理性なるものなるが故に科學のみよての満足する能はず如何となれば科學の哲學に比して左の三大缺點を有するを見ればなり

- (1) 狹隘なると (Not comprehensive)
- (2) 確實ならざると (Not certain)
- (3) 意味及び價值少なきと (Meaning and significance)

第一哲學の全く統一し科學の半統一するものなれば諸科學の勿論分離し居るなり

第二科學との正確なる智識てふ義なるに何故然るや之れ少しく論陳す可きものあり科學の諸説の物質と云ひ勢力と云ひ凡て主觀的なるは過ぎず之を明白に解釋するは哲學の本職なり我の一なり物の同一なり實存との如何實際との如何事物の關係の如何勢力及び其の變化の如何と云ふ如きの之れ哲學の明す可きものにして科學の之を假定して説明するに過ぎず

第三人界の哲學殊は宗教哲學なき時の其の價值あるなし事實固より尊ぶべし余亦之を尊ぶと雖も單は事實としての事實の無益なり例へば天文學の研究する此の世界の未來の現今の月の如く冷々慘慄たる愛なく情なき無味乾燥なるものと化し去る事實も單に之を事實としては何の價值もなし數千万の世界も數千万噸の事實も單に事實としては不可なり只之を理性に訴ふればこそ其の眞價をも知る可けれ然

らば人間の要す可きは事實のみ、在らず其の意味を有する事實なるや明なり而して此の貴重す可き人性の價値を論ずるの哲學其のものなり心理學の如き大に哲學に必要にして人智の性質及び其の發達を研究するも其の價値に至ては一も説及する所なし故に不完全なり我何者なりや何處より來りしや何處に行かんとするや上帝に對するの義務如何同胞に對する關係如何等の殊に哲學の研究する所なり

第貳回

哲學の定義及び諸科學との關係(下)

哲學の諸科學殊に心理學に於ける關係前の如しとせば宗教哲學の必要なるを見る可し夫れ哲學の世界に就き宇宙に就き統一の觀察をなし世界大源の一大實存者を求むるものなり此宇宙統合の觀察點より

見るに終極實存者に就て二論あり曰く凡神教 (Pantheism) 曰く有神教 (Theism) 是れなり余は今有神教的觀察點より又カント及び其批評哲學より人間の果して宇宙の大根源たる實在者を知り得べきや絶對に達するを得可きや又之に對する關係を知り得べきや等宗教上の問題を研究せんとす又フオートーの所謂智慧の點よりするも最近の説により哲學を科學の科學として見るも宗教哲學の必要なるを見る可し又近世は比較宗教學起り各宗教の起本其傾向感念を比較研究するに至れり去れば宗教哲學の決して度外視する能はざるなり又希臘史の著者ツェルレル氏云ふあり希臘の哲學の宗教に基くと以て其位置如何を察するに足る

今日陳べんとする所の(1)哲學の起原(2)精神(3)方法なり

第一起原 哲學の何處より起るやと云ふに是れ人間理性の生活及發

達の根原に深く基き來るものなり抑も人類の必ず哲學思想を要するの自然の理よして遠くプロト・アリストートルの昔より始まり近世學者又之を信ず即ちプロト・アリストートルの所謂眞成なるもの實在或の感念等を知らんと欲し又之れと交らんと欲する「エロス」に依て來り又アリストートルの所謂人間にの凡て智識研究の必要ありと云ふ如き若し余輩よして哲學を諾可せんと欲するも之を學ぶべく又否決せんとするも之を學ばざる可からざるものなり(アリストートルの格言 *We must philosophise if we must philosophise* *We must not philosophise*.) 述つ此に至り余の大に日本將來の有望なるを祝せずんばあらず之れ日本有爲の青年諸君が哲學研究に熱心すればなり夫れ哲學研究の人心必要を満足せしむるものよして貨物の如く吾人の容易に取捨す可きものよあらずロツエの言へる如く人間の人間として生存するよの必ず人

宗 教 哲 學

生の問題を解釋するの必要より起るものなり

人間は最も廣き根源的の智識を要求するものよして之を智識及び經驗に訴へ根源に達せんとす然るに諸科學は之を満足せしむる能はず如何となれば科學の前述の如く早晚一の不可思議(Mystery)なる障壁に達せざるを得ず例ば酸素の酸素と化合して水と成るべしと云ふも其の關係及び影響等よ至ての明白なる答案を有せず之れ哲學よ讓る可きものなればなり而して人間の理性の宇宙の不可思議よ就き統合的思想を有し之を全本よ及ばし他の眞理と衝突せざる一大感念を有するを要す加之理性最廣の意味にて智識のみならず情緒をも満足せしむるの必要あり即ち美妙道義宗教等の感念を含めざる可からず人間の智識を求むるの單よ之を欲するが故よ非らず必ず自己以上の實存者よ依頼するの傾向あり其の關係を明かよせんと欲せばなり近世の

宗 教 哲 學

宗 教 哲 學

學者ウントの如きは宗教に偏するの人にあらずして専ら實際的研究者なるも哲學の人智を満足せしむるのみならず同時よし人心を満足す可きを説けり即ち人心の要求情緒の満足に強力なるものよしして之を満足せざる哲學の悉く粉碎し盡され現今有力の哲學の必ず智識のみよあらずして深く感情よ基せり其の感情の内には美妙の念あり美術を生ずるの源因たるのみならず神に付き宇宙の大根源者よ就ての感念の大源因たるものなり即ち超自然的の勢力正義崇敬依頼高大等の感念の合して爰に哲學の起原を爲す

第二精神 哲學者の精神よ至りての大は宗教家の精神に類似するものあり即ち哲學者は奴隸たる可からず偏派なる可からず又傲慢なる可からず所謂其の精神あるもの自由よしして眞理よ忠實なる二元素の合一混同せるものならざる可からず

宗 教 哲 學

近世の科學熱心家の動もすれば哲學の自由研究の功績を蔽へんとするものあり然れども哲學の科學よ與へたる自由研究の切續の科學の哲學よ與へしものよりも大なり例へば近世哲學の開祖デカール氏の如きは思想自由論の一人よしして中世の羈絆を脱し近世の自由風となせしも同時に數學及び科學の大家たり之れよ力を與へたるが如し換言せば哲學者の自由に其の本領を研究せんと欲するも科學の一定の區域内外よ出づるを得ず即ち科學の人間の本源的思想を客觀的に假定せるも哲學の物質の本性世界の實存等を自由よ攻究し他の眞理と衝突する無からしむ

斯く哲學者の獨立し自由よ研究す可きも同時よ眞理よ忠實ならざる可からずロツツ曰く我が求むる處の眞理のみ(He is truth alone I seek)と古來哲學者の眞理の爲めよ殉死せしもの亦少あしとせず加之哲學の諸

宗 教 哲 學

科學と密接の關係を有し其の材料の如きの凡て諸科學の假定決定せる原理を用ゆるものにして獨乙の學者曰く哲學の目的の萬事を統全するにありと故に生物學との異様の關係を有す舊約書中神の屢活けるを記せり生命なるもの神の感念は必要なり然るに生命を研究するの生物學の特有たり然れども生物學亦明か之に答ふる能はず如何となれば生命の性質及本源に至ての同學は必ず障壁のあるればなり然れども神は就き自覺的の心懸なるを可決せずんば神を感ずる能はず此點は於ての近世の生物學の大關係を有し有神論は影響を及す少なからず故に哲學者は生物學を學び其の最近最良の結果如何を求む殊に心理學との關係に至ては余の實驗的生理心理學を學ぶは當て屢哲學上の新見解を得るを以ても其の關係の重大なるを見る可きなり然らば哲學の科學は對して獨立の判斷を爲すものにして科

宗 教 哲 學

學者の歸結も其の確實なる迄の變化するを以て哲學者の科學者は對し獨立の体面を維持せざる可からず同僚科學者某余に告て曰く吾が科學の大部の從來の誤謬を正すは依て成ると科學尙斯の如し哲學の獨立故なきはあらず

第三方法 哲學の起原及び其の精神已に斯くの如し其の方法に至ての術語を用て之を示せば(1)分解(Analysis)(2)綜合(Synthesis)の二法あり此の二法の凡ての科學上にも必要なれども哲學上は少しく其用法を異にせり即ち分解との諸科學より得たる原理及び歸結を蒐集選定するを云ふ若し材料を科學は得ず單に思想上に止まらば一の空中樓閣たるは過ぎず勿論天は登り空中を飛躍するも可然れども人類の時地に來り又登らんとするも地よりせざる可からず獨人ハートマン氏の誤謬の分解を完全は用ゆるをせず自己の前決せる歸結に適合せん

爲め更に或る一種の事實を應用する偏派なるあり
 現今獨乙哲學の凡て分解し流れ歴史的に走るの風あり先人の大事を
 評論するに止まれり千七百八十一年カントの名著出づるや其の空前
 絶後の大著なるを以て一時は之を凌駕するものあらざりしもヒフテ
 一、セーリング、ヘゲル、シュウベンハワー、ハートマン、英のスペンサー及
 び又獨のウント等相次いで來り種々の組織哲學を構造せり此の反
 動として現今獨乙の哲學を組織するを好まず批評的疑惑的に之を研
 究するのみなり然れども之れ決して永續す可きにあらず哲學の決し
 て過去として論ず可きにあらずスペンサーの云へる如く哲學の智識
 を完全と統一したるものなり之を爲すの人間の理性に於て止むを得
 ざるものなれば批評的歴史的のみよての不可なり此に至てか綜合の
 必要起る然れども分解綜合の兩々相助け決して分離す可きにあらず

之れ哲學にも他の諸科學にも異なるなし斯の如くして科學より得た
 る材料を攷究し之を科學に與へば互に確實なるに至らん
 哲學に對して三階の傾向あり第一獨斷的(Dogmatic)第二懷疑的(Skeptic)
 第三批評的(Critical)之れなり此第三の第二の惡弊を制限するものよし
 て批評の原語の希臘語より來るものよしして眞偽を分解判定するにあ
 り哲學史を繕けば初め希臘に於てソヒツ、ソクラテスの出でざる以前
 の只獨斷臆説を用ひしのみ次に懷疑的となりソヒツ、ソクラテス出で
 アリストテールの論理學あり一變批評の時代の來りしを見る然れど
 も駭々進歩せし希臘哲學の中世に至て一頓獨斷的に返り又第二期を
 經て近世批評的時代となれり此の間スピノザ、カント、ロツツ與て力あ
 り

是れ單に哲學歴史に用止まらず各個人智識發達に於けるも明かす三傾

向あるを見る智覺(Perception)よ就て云のんに始め小兒の萬物を見るや
 凡て之を實存物と獨斷するも漸く其の然らざるを見て懷疑の念を發
 し是より或るもの信じ或るもの疑ふ批評的となり再び第一第二
 第三と反覆するを見る道德上美術上又同傾向のあるあり
 附言す可きの懷疑の目的として不可無力なりと雖も若し眞理の爲
 めに疑へば理性發達上には甚だ必要なり懷疑の爲めは懷疑せず批評
 の爲めに懷疑し智識の爲めは懷疑するの學者の爲す可き一務たり

宗 教 哲 學

第 三 回

宗 教 哲 學、上 帝 の 實 在

是より上帝の實在に付て述ぶるは先ち哲學の性質より見るも宗教哲
 學の宗教生活の道理的の基本よして此の基本を標準として世界の起原

保存及び進歩を論究するものなることを知る可し凡て宗教上の信仰及
 崇拜の其の基礎を宗教哲學の上よ置く可きなり

然れども宗教の生活と宗教哲學の異點を擧げざる可からず夫れ信仰
 及び崇拜に就て満足なる哲理を與ふるは是れ凡人の應ずる能はざる
 要求なり新約書の記して生命の道の難を説くも哲理の門の更よ一層
 狹隘よして其の道亦險なり夫れ宗教の起るや聖人の教よ基き風俗習
 慣等よ依て發達し來るものなれば今日よ於て宗教の家族的國家的に
 確守するの大なるを見る然らば今日宗教を論ずるもの宜しく風俗習
 慣人情等との關係を輕視すべきは非ず加之如何よ學理の進歩するも
 宗教の如く大勢力を有する能はず如何よ高妙なる不可思議論も以て
 人心を満足する能はず一國の習慣風俗の連帶する所は之を變ずる能
 はざるなり而して此信仰の重きを宗教に有するは哲學者之を如何と

宗 教 哲 學

もする能はず獨のヘルベルト氏も宗教の起原哲學よりも古く其根底の哲學よりも深しと云ひ又ハーバード大學教授シエームス氏も哲學なるものゝ人類の感情美妙の感念實行上の方法等を輕視すべからずと云へり凡そ宗教哲學の宗教上の感情風俗等の中に在る實際の勢力を含有する丈け永久に存在するものよして哲學者ホグソン氏其著時間及空間中に於て宗教の一種の膨脹性を有するものなれば之に抵抗せんと欲せば之に勝るの勢力を有するに非ざれば終に失敗すと魯の文學者トルストイ伯も神を悟るの智識に非ず生命なりと之れ凡て頭に非らず人物に非らず感情ありと云ふ意に外ならず又牧師として余の經驗に依れば道理上の論証固より有益なれども信仰上の宗教と反對すれば勢力なきを知る一言よして云へば宗教哲學の最も廣き意味の理性に基くものよして勿論人情風俗等の事實として顯のすを要す之れ所謂ウントが理性の要求のみならず心情の要求を満たすものなり

宗 教 哲 學

宗 教 哲 學

故に宗教と宗教哲學との自ら異なる所あり然れども二者互に相助くるを得ば人事悉く調和を得るに至らん余の哲學者として有神論宗教家として基督教信者なり而して而ら之を守るを得ば全体の平和を得可し斯く宗教の人情と智識を満すの必要あれば宗教哲學の決して人情と反對すべからず故に最も不幸なるの人情の分離を來す時よして例へば美術上宗教上の感念の學術上の歸結と一致せざる時の之れ最も悲むべきの境遇なるが如し

又人間の理性を有するものなれば勢ひ懷疑及び批評の止むを得ざるに至る個人としても國民としても前述の三段を経過せざる可からず之れ獨り智識のみならず宗教も亦然り人間の皆懷疑の軍と戦はざる

べからず此の軍を敗りて後初めて調合の勝利を得ん然れども苟も一度び戦を始む決して退くべきにあらず全心を盡し自己の理性を満足せしむる迄の進むべきなり之を爲すに各個人凡て一個の Rationalist (善き意味にて) たり最も眞理は忠實にして輕々評論すべからず之れ人性大利益の關する所なればなり

宗教哲學の本職は宗教生活の依て起る假説の基本を立つるものなり然るは有心的絶對者(Personal Absolute)の此解釋は最も必要なるものなれば先づ宇宙の基本たる實存者を説明するにあり之を説明する種々の法あり今其の一二を列擧せん

(1) 依頼心 シュライエルマーヘル曰く依頼の感念は上帝に達する濫觴なりと此の事實は日本の都鄙凡て之を証明せり此の見へざる不可思議物に依頼する自然の感情及其れと人間の關係の自然之を研究す

るに至らん此に至てツェルエルの言余輩を欺かざるを知る之れ單に哲學のみならず諸科學の進歩及生命亦た此不可思議は依頼するの感情より發起せずんばあらず

(2) 道義の念 人間の凡て責任義務毀譽褒貶等及び行爲の源因たる勳念は對し可否の判定を下だすの念あり此の諸念の凡て客觀的は一個の法則制裁者あるを知るに至ては爰に始めて宗教上の生活に入る上帝存在の一証亦此の道義の念は基す

(3) 美妙の念 人類の凡て美妙の念あり舊約書中の美清等の單に形容詞は非ずして一種の意味あるや明かり宗教と美術而ら相伴ふものにして宗教の美妙心を満足せしめざるものは悉く失敗せり余は天然の美の悉く神に基ひし神に屬するを信ず哲學者亦之を確知するは非ざれば成功する能はず

宗 教 哲 學

之を要するは諸科學哲學宗教等の起原の人間に一の統一せんとする傾向より來るものにしてスペンカー亦之を説く然れども若し唯一の實存者なくんば宇宙の統一のあるべきは非ざるなり之れ固より至難の事然れども之を解釋せずんば余の講義を進むるを得ず余の此の實存者と呼んで未だ神と云はず一の絶對者とし其存在を論証せんとす此の点に至る迄の諸科學の勿論哲學中にも有神と凡神の別なく悉く一致符合せり學術上の智識通常の智識を分析せば一の實存者を含まざるのなし如何せば宇宙を統一する一の實存者よ達するを得べきか之れに依りて凡ての事實を説明し得る實存者よ達する方法の如何之れよ就きカント實在論証の其一法なり同氏の其の名著に三証を掲ぐ(1)實在論証 *Ontological proof* (2)宇宙論証 *Cosmological proof* (3)意匠論証 *Teleological proof* 之れなり此の實在論証の哲學的信仰第一の期本にして

宗 教 哲 學

此哲學的信仰の人間智を成立する者あり而して吾人の事物よ對する關係の必ず一大實存者てふ感念を起すべき者なり凡て人間智即ち學術及び通常の智識の此れに基く者よして實存てふ哲學的信仰を去らば人性の凡て夢なり此の實存なしとするか余輩の交際すら爲す能はず故に此の實存の關係なくんば學術上の知識の夢の夢なり如何となれば之れ夢に過ぎざる通常の智識の集め作るものなればなり例へば常識 (*Common sense*) に訴へんは余輩の日常目撃傳聞するとも此の實在なる哲學的信仰なくんば能はざるよあらずや心理學を一讀せし諸君の了知せん智覺よ就て幾十幾百の著書あり殊に近世の進歩に依り實驗的心理學の發達よ依り智覺 *Perception* なるものゝ感覺 *Sensation* より來り單純なる意識の情態なり其外音樂寒熱筋肉運動の説明の如き去る拾五年間に非常の進歩をなせり試よ手を机に觸れ眼を閉ぢ始め柔かよ之を

歴せば一種の感覺を得之を強くせば他の感覺を得手より腕より腕より肩に終に我に抵抗する余れ以外の實在物のある事を知るに至る可し此の實驗に於けるも單に感覺のみにては何の益する所なし其の感覺を興たる心外の實存物を信するに至て始めて之を智と云ふを得べし然らば事物の智識の我以外の實存物を認識するあり之れ實に本源真理なり此の本源真理を信せずんば人類の日常經驗の悉く妄誕に過ぎざるべし

諸君或の此れに付きて余に疑問を試むるものあらん固より世の現象の外實体あるを疑へる哲學者少しとせず然れども實存なくんば人間生活の一日も之を爲す能ざる可し先づ此の懷疑に就て余に質問するの余の實存せるを假定し居るよあらずや故に懷疑の内既に實存を默許せり此の問題たる科學の之を説明する能はず哲學者中種々異論

宗 教 哲 學

宗 教 哲 學

あるも其異論あるの會々以て實在の事實を証明せり若し之れなくんば何んぞ爭論起るを得ん然らば之れ智識の本源なり此の事實の科學上よの尙一層の確証あるべきなり如何となれば哲學の全く統一し科學の半統一し凡智は殆んど統一せざるものなればなり加之諸科學の凡て一致するの傾向あり理學の化學と關し化學の生物學と關し勢力不滅説の如き大法則を發見す故に宇宙の秩序的にして希臘人の之を *Cosmos* と呼べり之れ實に諸科學の確信する處なり固より科學中よの凡て物を物として云はず只物質 *Matter* と云ひ勢力も之を通有するもの、總名とせり斯く統一の傾向あるの他は唯一に實存者あるを証明して餘りあり詩家 *テニソン* 花を咏じて曰く

If I understand what you are,

root and all, I will understand God.

（花を知るを得ば根も葉も知るを得ば神を知るを得ん）
と之れ存在物より唯一の實存者を發見するの意なり此の實存者を稱して哲學の之を絶對者と云ふ此の點諸派悉く一致し一の異見あるなし希伯來の Iyem プレトリーの實存もスピノザの實體即ち宇宙本体もフヒテ一の我もシユウベンハーソ一の無覺意志もハートマンの無覺智識もスペンサーの不可思議も此の一大實在者を指さずして何んぞや

第四回

上帝の性質(上)

全体の講義に付き諸君の注意を請ひざる可からざるものあり此の數日間の講義の實に議論の多きものにして完全に此れを論述するの時の許さざる所なりと雖も余の陳述する所は凡て余が多年研究の結

果よして充分余の確信し得る所のもの、みなれば諸君も之よ付き充分なる御信用あらんとを希ひざるを得ず

殊よ今日の講義の如きは論証甚だ多きを以て容易よ之を論述する能ひざるも兎よ角前述の如く不可思議説を除きてハ有神教も凡神教も而ら宇宙に一大實存者在るとを証せり此の内不可思議論を除くハ同論の未だ完全なる哲學の組織よ達せざればなり

世界の存在其の内の變化人間界の經驗及び實存等ハ一の絶對的實存者ありとの假定に依りてのみ説明せられ得可きものなり然れども此の實存者の性質を論ずるに當て其の分界線に達す可し即ち有神教及び凡神教の二説ハ其の説を異よするも明かよ宗教哲學上の二要素として之が説明を爲すものあり尤も凡神教の内にも種々異説のあるあれども過去の經驗に依り一致符合する所ハ前回の歸結の如し

此二説の異なる要點の (1)有神教の絶對者の有心なるを諾可し凡神教の之を拒絶す有神教の凡て世界及び其の變化の顯象の基本の自覺意識ある理性的の實存者に依るとし凡神教の其の基本の無心者の力なりとす即ちシユウペンハフターの無覺意志ハートマンの智識を兼ねたる無覺意志スベンサーの不可思議の如きものなり (2)凡神教の人類の靈性及自由を拒み有神教の之を信す然れども此の一般に云ふ可からず如何となれば有神論者中にも此れが自由を拒む者あり又凡神教論者中にも自由を主張するものあり例へばフヒテールの凡神教論者なるも余の彼れ程人間の自由を主張したるものを知らず然れども第一の明かよ第二を含むものにして絶對者の有心者なることを否めば自然に人類の自由を否む可く又之れが有心者たるを可とすれば人類の自由を諾可するに至る可し

扱此の絶對者宇宙の一大實存者社會の基礎の有心者なりや之れも答ふるに神の性質を論ず可きも此の後日の論題として先づ絶對者は自覺ある理性的實存者なるやを研究せん之れ甚だ困難なる問題の一なり
 自覺の之を論ずるは當て一方にハートマンの如く他方よハロツエの如きものありて全反對の意見を有せるの一事を記臆す可しハロツエは凡て實存者の自覺意識のあるものにして之れ無くんば實存者と云ふを得ずと云へり故にハロツエの事物の實存の心靈の實存と異なり事物の寧ろ實存なきものとせり若し之れありとせば絶對なる實存者の顯現したるものと説明せり故に有限人類の心靈の事物と異なれば實存の生を有するものなりと而してハートマンの絶對と意識との相容れざるものとせり然れども余の信す必しもハロツエの如くせざるも絶

對者の有心あるを説明し得るを論者は自覺意識と絶對との全く矛盾するを説くも其の然らざるの意識を分解せば明とするを得ん意識の作用に二要素あり曰く客觀曰く主觀之れなり余の意識の作用ある時の自己以外は他物ありと云ふ客觀的存在あるを要す少くも心中は意識の目的たるものならずんば其働を爲す能はず依て論者の絶對との獨立なるものなり然るは意識の作用の自個と他物となかる可からず故は絶對者の意識なきものと論定するも余之れは答へて意識の自己と他物の二者を要するの人間の謂なり之れ即ち人間の獨立なきものにして我にあらざる實存者に依るものなり我に如何なる意識の形を爲す可きかと云ふ撰擇なし例へば小兒の火を見るや光あり眼より視神經を経て脳髓に入り意識の作用をなす凡て人間は萬物に支配せらるゝものにして太陽より光線の發射及び「エーテル」の振動數四

宗 教 哲 學

宗 教 哲 學

十五ビリオンの赤六拾五ビリオンの紫に依て色を顯はすものにして是等は凡て人間の如何ともなす能はざるものなりロツエの説に此の點は動かす可らざるものあり人間の意識の限あり然れども是れ自己意識あるが故は有限なるに非ず人間の有限なるが故は其の意識も亦有限なるなり意識の作用は主觀客觀を要す然れども絶對者の其の意識は於て凡ての他物を知り其他物に在る變化を知る然れども是等の他物及其の變化は皆な自己の意志によりて存し一として己れに依らざるなきを知るなり故は絶對者の意識は於て客觀となるもの人間の意識は於て客觀となるもの、如く主觀に獨立對存するものに非ず故は絶對者の意識は人間の意識の如く他物に依頼し他物に制限せらるゝが如き有限の意識ならざるを考ふるを得可きを知るべし
凡神論に依れば此の事(絶對者を自覺意識者となす)の絶對者を卑し

ひと爲すも果して之れ眞ならば智識の人品を卑ふするものと云ふを得可きカスペンサー氏の凡神教論者として眞意を絶對者よ附會するの不敬なりとすマシウ、アルノルド氏亦然り然れども絶對者に自覺意識を付するの決して絶對者を賤ふするものに非ず又自己の爲めの存在の果して賤しきか机の之れなし人の爲めよ存するものなり若し人なくんば其の價値なきよ至らん然れども余輩の然らず他物に依らず自個よ依て存す余の余よ迄又余の爲めに存す(I am to myself and for myself)と云ふ主觀的客觀的の二様あり而して余の存し存するを知れば又幾分か如何なるものなるやを知るに至らん之れ果して自己を卑ふするものなるや否之れ實よ人間の花冠なりと云ふ可く之れよ依て人類の事物の上又た動物の上に位するを得るものなり動物の自覺意識ある確証の甚だ疑ひし即ち To myself and for myself のものなるや疑ひし

故よ自覺意識の絶對と反對するものよあらず只之れ人間の意志限あるの人間の限あるよ依る凡て天地間の實在及び其の働及び絶對者自身の働も絶對者の意識の目的となる可く而して此の意識の無限なるとを考へ得可し
 有神論者の有心的絶對者を信すロツエの論よ完全ある有心者の如何よしても絶對ならざる可からず人間の有心者たるの不完全なりと云へり
 次よ不可思議論者の説よ答ふ之れ重よスペンサー氏の所説なり氏のハートマンの如く獨斷的よあらずして絶對者の意識以上のものなり絶對者の凡て有限者に勝るを以て心靈以上の名なり意識ある人間の言語よて之を解釋す可からずとせり余の之れに答へて云はんスペンサー氏の絶對の實在を確信す此の斯氏をして絶對の實存を斷定せし

宗 教 哲 學

ひる理由の又余輩をして自覺絶對者の性質を研究せしむるに至る可し之れ知る能はずと云ふの満足ならず而して此の絶對者を確認すると同様に依り絶對者の意識あるを知るべし之れ斯氏の第一原因第一章を見れば明かす斯氏も譲りし所あるを見る可し今第一は絶對者の觀念を分析すれば之れが有心者たる論証を發見す可し不可思議論を充分に論評せば有心的の歸結に至る若し然らずば意味なきに至らん斯氏の勢力即ち唯一の勢力と云へり此の明かす斯氏の不可知と云ふものも其の存在する事實の之を知るのみならず其の勢力なり唯一なることを知るは非ずや此の言の共は自覺意志を含蓄するものにして勢力と云ひ唯一と云ひ有意識の意を以てせざれば明白ならずシヨウペンハワーの勢力を研究して其歸結にの盲目の勢力(Blind force)意味なきを以て之に代るは勢力の一致せるより意志(Will)又

宗 教 哲 學

又意慾を用ふ即ち宇宙の基本の之れ第一意志の内に在り然るは意志の之を分析せば意識と分離して明白ならず故に一大意志の有意識者たらざる可らず物理学中の勢力も意志と云ふ方却て明白ならん世界の勢力の意志は在りと云ふ一定の目的に従て働き之を作用せしむるもの宇宙の基本なりとせば勢力の有意識と云ふもの也盲目の勢力の人間の盲目と同じく何處より來りしか何處は行く可きかを知らず又方向をも知らざれば同一の方向に再び行き能はざるものなりハートマン氏の三巻も物理心理学社會學上より研究の上意志のみよての絶對者を説明し得るもの非ず之に加ふるは智識を以てす可しと云へり然れども智識の意識を去て存在するを得ず之れ恰も木製の鉄(Wooden iron)と云ふ如し斯く一の絶對者の存在の凡神教も之を確認す今日に於て一大基本なるもの唯一なりと云ふ凡ての學說之を証せり而し

宗 教 哲 學

て再び多神論に歸る如きの今日の傾向決して之れ無し之れ凡ての哲
 學中最も必要のものなりカントの説は依れば唯一との一とするも云
 ふ働を外よして考る能はずと云へり勢力の意志はあらざれば明白な
 らす意志の意識を離れて明白ならざる如く唯一の其の働なりと云ふ
 意を以てせざれば意味なきなり例へば物質元素の唯一の如きの如何
 と云ふは酸素の一元素を取り見よ此の幾百万年を経過せしか知る可
 からず或時の窒素と遇ひ或の水素と合し或は炭素と合し種々の舞踏
 を爲しつゝ、存在す而して之れが炭素或の水素と遭遇し如何にせば可
 なるやを知るとを説明せんと欲せば酸素の元素にも亦法則の在ると
 を解釋せずんば明白ならず世に元素の其の天性は依て働くと云ふ者
 あれども是れ犬の天性は従て吠ゆと言ふが如く説明にあらす夫れ元
 素の單獨にして働く能はず單獨よての其の働如何其の性質如何亦た

宗 教 哲 學

知る可からざるなり元素の形もなく感情もなし其の一体を爲すと云
 の理想的は屬するものなり是れを説明するの科學の本領は非ざれば
 哲學の取て以て之を研究す斯く科學の基本たるものも哲學上自覺意
 識の意味を含蓄する言語を用ゆるに非らざれば説明する能はず若し
 此の本源眞理を去らば通常の智識も科學の智識も成立する能はざる
 べし
 最後は人間の情性に依り絶對者の自覺智識なかる可からざるを證す
 可しウントの言の如く智識上よりするも美術上よりするも感情上よ
 りするも絶對者の自覺意識を有するものとせずんば余輩の常情を滿
 足する能はず道理の裁判は於ても有神教多く理は適へり感情の要求
 に訴ふる時は有神教の優れると亦論なきなり換言せば人心の望む所
 の有心的絶對者なり此の点は付て斯くあるべしと斷言せず只道理を

論述し諸君の承認を得んとす萬事を見るに、哲學の智識以外のものも之を容れて觀察せざる可からず若し之れ無れば哲學の完全ならず宇宙の哲學に於てシェームス氏及びヘルベルトの言は依るも又ホヂソンの人情の膨脹力に抵抗して失敗する云々を以てするも明白ならん而して最も手近き例を用れば人間は凡て尊敬の念あり之れ強を見大を見て崇拜するの情にして日本にて固より然らん我が米國も於ても大功ある軍人上院の政治家等の有力家が國家を巡守する時の人民甚しく之を歡呼するを見る毎に余は弱の強に頼むの人情の常なるを確信し又た人情凡ての崇敬心を満足せしめんとするものあるを知るなり而して有心的絕對者も非れば凡ての崇敬の人情を満足せしむる能はず

之を要するは人性の不完全なるも無心的絕對者に依て満足す可き者

も非ず有心的なればこそ始めて賞讃するを得可し常は宗教の傾向の有心的絕對者に向て進み凡ての感情の有心的に傾きマシウ、アルノルドの所謂宇宙間正義の爲めに働く力ありと云ふも之れ有心的絕對者を否めば何の意味もなきなり而して之れ實に歴史上にも明なる事實にして意識なき勢力の何の價値もあるなしシヨルツ、エルオットの言は正義は神の王國の如く外部の事實と云ふよりも寧ろ吾人の内部に在る理想的願望なりと美術哲學亦然り美妙の如きの實在者無ければ之を考ふる能はず天然の美妙の之を樂む意識なくんば考ふると能はざるなり

第五回

上帝の性質(下)

絶對の性質如何人間の理性より如何なる性質を神に歸す可きや神の性質は二區分あり

第一自然性 (Predicate)

第二道義性 (Attribute)

第一自然性 といふ上帝の絶對なる智覺より必然に來るものなり神を神として考ふる時の必然に表顯し來る性質なり道義性と神の道義に關する性質として此の二性を論ずるもの論法自然異らざる可からず神の唯一又の遍在及び無限等の神の自然性として絶對たるの性質より必ず來る可しと雖も神の正義仁愛等の之れ必然に來るものにあらず之れに答ふものは廣く事實歴史宗教等人事全体に照して蓋然的の論法を用ひざる可からず

(A) 上帝の唯一 哲學論法上積極消極の二法あり消極的は云へば絶對

宗 教 哲 學

人間の如き制限なきものなり積極的に云へば神は對する性質は實に在せりと云ふを得可し今唯一なることを消極に云へばエホバの外に神なし又其の他に在り能はざるの意を有す舊約書中ではエホバの外神なしと記するも之れ宗教思想幼稚の時代なるを以て當今哲學上より論ずれば神は唯一の外他にあり得べからずと云ふ意味なり積極的は論せば神の唯一なること甚だ誤解するの恐あり神の唯一と宇宙の一事物の一と云ふの之れ其の意を異にす机の一なり之れ實際上よりの謂として種々の木材を集めて之を作るも一机として之を用ゆ之れ職工の一となしたるものなればなり又机の心理學上よりも一体なり人類の智覺作用よりも一体なり人類五管の働の統一するものにして智力に依て机を智覺するの人間の靈魂の五管に依りて統一するを云ふ机の又物理學上より云ふも一体なり然れども科學が机に付

宗 教 哲 學

て興味を感ずるの前の一体との少しく異り實際上の一机として又心理學上の一机として智覺するもの科學の之を分析して智覺す即ち凝集力に依て一体をなせるものを分子に分析す故に科學の關係する所の一分子なるも分子の思想上の一にして假定説に屬す分子の正確に云へば決して一ならず即ち元子の集合したるものなり分子若し一体ならば其を一体ならしむる勢力ありて然かせしめしかり斯くせば物質を容易に証明し得ればなり然らば之れ假定一致 (Hypothetical unity) に外ならず又心理學上の一ならしむる作用の之を智覺するに多少の時間を要す一の机を智覺するも之を直ち智覺するものよあらず之を成立する丈けの時間を要す之れ地球の一も宇宙の一も希臘の所謂秩序的の宇宙も同じく心靈の見其の世界の現象を統合する作用に依り一時一体 (Temporary unity) を爲すが故なり心靈上の作用の統合に必要

宗 教 哲 學

よして宇宙の一体を成立するも心理上より云へば意識に於て統一するに依る學術上より云へば又勢力の一体ならしむる結果に依り秩序を爲して (Cosmos) を爲すなり

神の唯一の物体の一の如きよあらず元素の一の如きにあらず更に一層高尚なるものにして心靈上自己意識の最高なる作用なり此の心靈の統合する作用の世界の一体を智覺するにも必要なり若し此の智覺意識なき時の世界の一致なるも考ふると能はざるに至らん之れ凡神教不可思議論者よ答ふ可きものよして絶對者の自覺意識なくんば何の意味もあるとなし

(B) 上帝の遍在 消極的よ云へば神にの人間及び有限者に關する空間上の制限なし諸君と余の空間の制限は屬す余の五週間前のニユーヘブンに在り三週間前の大平海の上よ在り卅五分間前の此處よ居らざ

宗 教 哲 學

りしなり有限者の場所空間の制限あるも神にの之れなくして一所より他所に移る如きとなし此處にあり彼處なほと云ふ如きとなし余輩耕作せんと欲せば室内よて之を爲すを得ず必ず屋外よ出て勞働して鋤鋤を用ふべしと雖も此等の制限の絕對者よなし單に之なきのみならず若し之ありとせば妄端となるべし

積極的よ云へば神の在らざる所なしとの自覺智識ある有心者として理性ある絕對者として神の何處にも在り又何處にも働けり神あるに依て宇宙の働き且つ存在し得るものなり心靈の作用も事物の變化も神の何處よも在りて働くよ依るものにして宇宙の顯象の神の無き所なきに依りて説明するを得例へば太陽の地球を引く如き諸星の太陽系に影響を及す等實存者が何處よも在りて宇宙を通貫するものなればボーロも我儕は神よ依て生き又働き又在るを得なりと云へり故

宗 教 哲 學

に神の最も堅き球の内よも在るものよして人心の内にも萬物の内よも同様よ在るものなり如何となれば凡て勢力の無限なる絕對者の顯現なり若し然らずんば宇宙の事物の説明するを得ず科學の基本此に至てか止む

(C) 神の全能 消極的に云へば神よは元因結果の制限なし人間の因果の制限あり他の事物皆然り酸素の力あるも凡ての事を爲すの力なし若し單獨からしめば何事をも爲さず他の元素と化合し始めて其の作用を爲す若し一個のみならば其の性質及び作用の之を研究するを得ず酸素一元子の外よ他の酸素一元子あらば合して酸素の分子を作る若し水素と合せば水となり鉄と合せば酸化鉄を生ず斯く物質の凡て他物に依頼するものなり之れ單よ元素のみならず人類亦然り吾人の意志及び靈魂の力の固より力あるも種々の關係に依て働くものなれ

宗 教 哲 學

バ制限あり之れ他物に依て働き成功し得るものなればなり例へば耕作するも無手よての爲す可からず必ず鋤を用ひざる可からず而して其の鋤亦力あるにあらず只分子の集合に依るのみ此の分子の如何にして之を作るや凡て分子間には凝集力あり一体を爲すも各分子の接觸せるものよあらず斯く研究し來れば宇宙間如何に秘密なる因果の作用あるを知るべし只神の原因となりて天地を創造せし不思議なるよあらず事物の因果悉く皆不思議なり分子の凝集力に依て統一せらるゝ如きも能く熟察せば神の働を知るべし又事物は其作用に依て一致を示せり世界の一なり然らば此等のもの如何にして成るや之れ神の働に基せり凡の勢力及び作用の神の不可思議なる働なり此を考れば余輩をして自ら敬畏の念を發し凡の勢力の神のものなり統一の神の爲めなりと云ふ念を起さしめ隨て神は最も近く存在するの

宗 教 哲 學

念を起さしむるに至らん若し科學及び哲學に於て實存者を假定せざれば科學及び哲學の成立せず然らば神の常は世界に必要なるものにして只天地創造の始めのみならず現今亦之れ無くんば森羅萬象を説明する能はずボーロの格言の如きの固より望む可からざるなり
 (D) 神の無限及不變 消極的よ云へば神の人間の如く時間及び空間の制限なし積極的よ云へば神の自覺意識ありて道理性の一定不變なるを云ふなり凡て宇宙間に不變なるものあるの神の性質に基くなるべし誤解を防ぐ爲めに一言せん不變と云へば變化なき謂よあらず舊約聖書中にも在る如く神は罪を犯せば怒り賜ひ罪を悔ゆれば余輩を愛し賜ふ云々よて罪を犯す時も之を悔ゆる時の自ら其の關係の異なるを示す凡て神の一定不變の堅きと岩の如き謂に非ず只神の性質の内よて理性上道義上に於て一定の主義を守りて變化せざるを云ふ人間

の神の如く確立する能はざるも其内にて一定の主義を守ると云ふは一定の理想を守り之れに違反せざるは在り即ち美術上道德上の理想の不變なるを云ふ神の一定亦然り之れ道德上の一定を云ふなり只單調(Monotony)なるもの之れ價值なきものなり有神教の之に付て幾多の誤謬を生せり神の單に無人情なるものよあらず凡ての生命之れが内は在り然れども其の動作は至ては常は變動あるべし蓋し變化なきもの死せるものなり神の不變の一定不變の理想を有し之を守るを云ふ

(E)神の全智 消極的は云へば人間の如く不完全なる智識を有するにあらず無限にして發達増加するとなし又人智の如く偏重するとなし一目にして悟り其の智識の發達以上のものなり

積極的は云へば神の智慧の直接の智慧なりとす何の論法も用はず何

宗 教 哲 學

宗 教 哲 學

の推定も依らず智に依て知らる可きとの皆直覺なりとす凡て宇宙間は在る道徳的生命を有するもの、基本の之れは依るものなりと云ふ意なり舊約書中神の人間を其の形に似せて造る云々とあるは幼稚なる思想なりと雖も此の一句は哲學上廣大深遠なる意味を有するものなり之れ科學及び哲學の基本たる大眞理なり是れ宇宙を通觀するに其の内はある道徳の人心内の道徳と投合し理と理と相照應するの大眞理を顯現したるものなり

第二道徳性 之を論せんと欲せば少しく異なる論法を用ひざる可からず即ち宗教上の歴史基督教の顯現等の種々の事實を綜合し來て蓋然的の論証なれば必然なるものよあらず道徳上より推定す可きよあらず曰く正義曰く仁愛此の二性質の哲學上大議論あれども今深く之を論述せず只神の全く善(Infinite Good)なりや全く正(Infinite Just)なりや否

やを定めんとす之れ前述の如く斷言する能はず往々反對の事實を發見すればなり之れ外界を見れば科學の教ゆる事實を知るも知らざるも直ちに之を知るべし換言せば確証する能はずと雖も智識増加し宗教上の顯現研究發達し美妙及道理性の發達するを見て之を概論すれば其の正及善なる方輩る道道多く且つ人心を満足せしむ凡神教及び有神教の爭論亦此處より即ち議論の異なる所一の厭世主義 (Pessimism) に傾き一の樂天主義 (Optimism) を取るの已むを得ざるに至る樂天主義との美術詩歌文章等固より悲觀の要素ありと雖も全体に希望的に善の方向を見るよりあり余日本某寺院に鯉の瀧上りと獅子の子落を模寫せるを見たり人生亦然り人として生れ苦に遇ひ勞を嘗むるの其の常なりと雖も大体より有神教の希望的にして凡神教の厭世的の如きを見る之れ神の有心者たるを否定するが故に神の正義仁愛を信す可き基

本無ければなり

第六回

上帝と世の關係

今日の有神論中最も基本的なる神と世との關係に就て論せん斯氏の主張したる不可思議論及び凡神教の哲學說等の有神哲學を非難するの理の第一絶對者なる語の意を誤るに依る即ち彼等の絶對者なる語を關係無きものと云ふ意に解釋せり斯氏は其の著第一源因より於て不可知者なる説を立つる時の毎に絶對者なる意を關係を絶ちたるものと云ふ意よて用ふ之れ單に斯氏のみならず英の神學者マンセルも理想の定限なる講義中に基督教を辨する爲め絶對者の定義を理性なきものとして論せり蓋しマンセル氏に依て天啓の必要を説かんと

宗 教 哲 學

せしも斯氏の取て以て自個不可思議論の論據とせり又奇怪ならずや若し絶對者よして無關係なるものとせば固より消極的にのみ知り得可きのみならず全く之を知る能はざるなり之れ無關係なるものを知る能はざるの理の將は然る可きとよして論証に先て不知と歸結せるものなり

凡神教及び不可思議論の有神教を攻むる時の絶對者の凡て關係なきものとなすも其の推論中絶對者よ就て斷言する時自個哲學の大原因を述ぶる時の前述の定義を取らざるのみならず寧ろ積極的論述す斯氏の絶對者を勢力と解し唯一なる勢力と云ふも既に勢力と云ふ關係を有するものにして唯一と云ふも亦然り故に唯一勢力との關係を有するものなるや明かなり宇宙は絶對者あるを理會せば之を理會するものとせらるゝものとの幾分の關係を有す可きなり之れ理會との

宗 教 哲 學

物と物との關係より起るものなればなり故に不可思議論に於ても有神教を攻撃するを止むる時の絶對者の他物と關係あるを証認すスピノザの無限實體も實體との他物の性質は對して云ふものなれば決して無關係と云ふ可からず又シユウペンハワの意慾も幾分の關係あり慾と云ひ去と云ふ關係なきものなしハートマンの無覺智識も亦他物との關係を有するを示すを見る若し非離者の云ふ如く神の宇宙中は獨立孤在し他物と關係なくば此の問題の如きの始めより之を論証せざる可し故に絶對者を無關係者と云ふ意の凡神教及び不可思議論の有神教を攻撃する時よ用ゆる言語よして其の一時の用語たるを知らば其の著書を繙くは當て注意す可きの此の一事あり

吾人が宗教哲學よ於て絶對者と云ふ語を用ふるの消極的よ云へば他物よ毫も依頼せざる實存者と云ふ意なり積極的よ云へば凡ての實存

者の依て以て立つ所以の實存者なり
 今絶對者を論するに當り固より理性あるとの含有し居るものにして
 他物の依頼せる實存者と云へば理性あるとの言を俟たずして明かな
 り只た之れを承認せるの有神哲學に止まらず哲學自身も此の意味を
 用ひ居れり神を考ふるに必然の性と道德の性ありと云ふ若しも此を
 非難するものあらば之れが關係あるとを可決して然る後に云ふ者た
 るべし故に宗教哲學は如何にしても懷疑説に陥らざらんと欲せば必
 ず絶對者よ付て何か理會する所あらずんばあらず然らずば必ず懷疑
 説に陥り事物の基本を失するの不幸に至らん固より神と世の關係の
 人智の不明なるに依りて瞭然たらざるの明白なりと雖も之を以て神
 の決して人智の及ばざるものとして捨て置く能はず之れ單に學術上
 の智識のみならず通常の智識も亦然り

宗 教 哲 學

宗 教 哲 學

絶對者の實存を信する理の物質の實存を信すると同理なり余輩の互
 に關係を有し居れりと云ふを信んずると大實存者絶對者との間は關
 係ありと云ふを信すると同様なる論據に由る者なり斯氏も自らの絶
 對の實存者ありと云ふとを確信するに他人よりも其の信仰の理を明
 白にせるが如し然れども斯氏の道理に依りて絶對者を見止むるに至
 りしも此と同理によりて吾人が受くる所の歸結を得る能はざりしな
 り之れ實に斯氏の困難欠点なりとす
 神と世との關係を研究するに當り左の三條を區分すべし

第一創造者 (Creator)

第二維持者 (Preserver)

第三支配者 (Governor)

(一) 創造者 創造の宗教哲學上に於て宇宙の絶對者に依りて成ると云

宗 教 哲 學

ふ意見の如何なる意を必用となすや此れ有理の實存者及凡ての事物の全く有心的實存者の意志に基因すると云ふとなり換言せば有限なるものの絶對なる神の御心なり之を言ふにの宗教哲學の皆制限なしとして云ふ可し空間も時間も因果の理法も皆之れ絶對なる神の規則的方法なりと云ふにあり神無くんば之れ無し勿論此等は人間を支配すれども神の方法として顯るゝものなり世界の一時に成りしよもせよ開發せしよもせよ有神哲學よ必要なるもの創造の絶對者の意志(WIII)よ依て成るの一事なり此よ至て種々の議論あり之れ哲學上の問題よして解釋する能のざるもの多く創造の本源思想よの關係少し只諸君が好奇心の爲めよ考へんと欲せば其の一例として天地の時よ於て作られしや否やの問題の如き時の事物と事物の關係なれば世なき時の時の在るべき筈なし故に世時よ於て成り如何にして成るやと云

宗 教 哲 學

ふ如きの決して考ふる能はず時の奇怪なるものにして一直線の如く進むと云ふも之を直線よ比するも空間の直線の時の直線と異り即ち空間の直線を書くよは必ず甲乙の二点を要するも時の直線よ於ての乙時の時に甲時の既よ消滅し去り丙時の時よの乙時既よ去る一事終り他事始まり始めて時と成るものなり
斯く説明し能のざる他例を擧ぐれば何故よ神の此の世を作りしか何故に神の一の確斷なる時に作りしや何故よ其より早か或の遅く作りざりしや等の決して吾人人智の及ぶ所よ非らず斯くの如き難問を出して有神哲學を困却せしむるものありと雖も之れ有神哲學のみの非難よあらず是等の凡ての哲學の共有するものなり有神哲學よ依れば是等諸問題を研究するに於て他哲學よりも大よ其の解明の易きを覺ゆ世界の例合ひ始めあるよせよ之れなきにせよ神よ依る即ち有神哲

宗 教 哲 學

學の神を有意識の絶對者と假定したれば之を説明する甚だ理由の見出し易きを覺ゆ然れども凡神教の之を理由ありと云ひ能はざるなり世界在り何故にありやと云ふの凡神教の説く能はざる所有神教の説に依れば既に世界ありとすれば神の意志は依て造られ若し始め無しとすれば始め無き神の意志は因るものなりと云ふ如きを以て見るべし世界果して創造せられしや否やの余の獨斷せざる所なりと雖も科學の傾向及び有神哲學の大勢に依て考ふる時の始めありと云ふ方力あり作られし理由の有神教に依れば絶對者の理性に歸するを以て其の説明す可きもの亦理あるを覺ゆ但し科學にても始ありと云ふ方理あり其の説明の問題外なるを以て之を除かん

然れども凡神教の其の理由を少しも與ふる能はず然れども科學と同様に進歩せんと欲せば始めありと斷定せば可なりハ―セル及びマキ

宗 教 哲 學

シウエル氏等の物質の元素の製造品の特質を有すと爲す之れ近世紀學術の歸結なり然れば此の元素の始めあるものからん此の元素の何より出來ると云ふは凡神教より有神哲學の此の点は於ても説明の困難少きを覺ゆ理性ある絶對者あれば一大社會を作りて幸福の中に在らんとを願ふ如き理性の目的人間中にあるを見れば有神論の無神論より容易に解釋し困難少き答を出す

(二)維持者 保存せらるゝ点よりも有神論の根本的思想は世界の絶へず神の實存及び其の絶へざる働に依頼す之に付て種々の難問あり人間の靈と神の關係の如きも凡神教よりも之を説明するは困難少し

(三)支配者 神の支配に就ても物質を除きて之を研究するを要す神の支配を受くるもの人間の如き有心者のみなり物質的の支配は神の支配と云ふ可からず如何となれば是等の直接の絶對者の働にして物

質的の働の神の働の表示なる如きものなればなり然れば神の支配の
有心者よのみあるを知るべし

絶對者の有心的道義性あるものなれば人間なる有心的道義性を有す
るものを支配するの勿論のとなれば物質の支配せられず働物の如何
と云ふも若し動物よして支配せらるれば必ず幾分かの道義性を有せ
ざる可からず神の支配に就て宗教哲學上三個の意あり

(A) 人間の訓練(Discipline) 凡て人間を養育生長訓練するの謂よして萬有
の法則の下に在り初めて神の訓誡を受くるものなりとす之れ必要に
して神の正義に大關係を有するものなり神の思想より見るも人間の
一定不變の法則の下に在るを要す若し人間よして罪を犯し宇宙法則
より罰なくんば徳義上の訓練を爲す能はず斯くの如くよして品格の
養成を爲すを得

(B) 神の人間を支配するにハ家族社會國家等の政治よ依るものなり余
輩ハ家族の一人として種々の訓練を受くるハ神の支配の下に在るな
り

(C) 人間の心中よある神の攝理とハ天啓及び「インスピレーション」等に
依て人を導くとなり之れ單に宗教家のみならず詩人亦之を認む詩人
ハ胸中一片電氣の感ずる所あり美妙なる傑作を出すものなり英雄豪
傑軍人政治家皆然り政府亦然り國家亦然り

以上の三大概念よ依て上帝を考ふる時の絶對有心者の世界に三個の
關係を有するを知る之れ學術上の進化説と反對するものよあらず之
よ付き今進化説の學術上に於ける地位及び「ダウン」と現今の進化説
の關係等よ付き少しく論述する所あるべし

(一) 夫れ進化發達との有神教に毎よ伴ふものよして其の苗遠く創世紀

宗 教 哲 學

に出づ世に或の創世記の始をバ學術と強て調和せしめんとするものあれども之れ余の賛成せざる所なり然れども第一程度第二程度第三程度となりて進化したる跡の明白なり此の程度の廿四時間なるよせよ然らざるよせよ其の時間に發達せし事實なり又基督も初めの苗次に穂出づ云々の語あり

(二) ダウインの進化説の實は大利益を與へたり其の天然選抜法或の自然淘汰法の如きありて萬有の自然に發達したるを説明せしの大は學術の進歩を助けたり天然の境遇に依て變化するを知らしめたるハダウイン氏の功力と認む可きなり

(三) 進化説の萬有を研究するものなれば萬有の學者の凡て之を用ふ實際解釋の異なるよせよ勿論假定説として用ひらるゝなり即ち少しく思想ある人の確定説として用ひざるも有益なる假定説として之を用ふ

宗 教 哲 學

余も此の意にて之を採用すべしダ氏の進化説の甚だ改正せられ今日ハ氏の遺したる如く進化説を用ふるもの少し即ちダ氏の天然を多く引用す然れども胎生學發達し体中の變遷發達の研究大に進歩しければ近世の學者の内部發達を注意する甚だ切なるよ至れり之れ獨の二學者擧て方あり細胞の變遷すら進化論の注意を引くに至れり將來進化説の如何なるものなるや豫知する能はず之れ進化説自身も亦進化すればなり而して人体の解剖を研究するも之れ又單に進化説のみよての説明する能はず獨乙のハツケル氏進化説を用ひて説明せしをウイルフウ氏の之を攻撃せり又英國のハツクスロー氏馬蹄を進化説にて米國よて説明しニュートンの引力法と比較し同様なる學術上の確定説と稱せしも此の説の妄端なりとスウイルヒウ氏の言にダ氏の發明以來之よ依て説明し得るもの多きも又同時よ説明し難きもの

を加へたり而して人靈又の社會道德を解釋するに進化説を用ゆる時の物質界の進化説の甚だ改革して用ひざる可からず之れ思想變ずればなり固より靈魂の發達社會の進化を信んずるも甚だ注意を要す動物の一種他種に至るとの意味あるも一の靈あり他の靈は變化すると云ふの意味なきに至るべし

最後に進化説の有神教は於ての影響如何進化説を眞理とすれば以上の三關係の之を否定す可きか否之れ進化説は依て何等の影響もなし如何となれば進化説の説く所の神の以上の三大關係を有する其の働の方法のみなればなり神の三務の根本的思想を動かすとなし只方の働の方法を明白ならしむるのみなり故に宗教哲學の神は於ける思想の三点の進化説は依て變動せらるゝとなし

第七回

神の顯現

今日の神の顯現明日の奇跡次の「インスピレーション」次の人間の性質最後に宗教上の生活祈禱の道理あるとを研究せんと欲す此等を研究するの聖書批評よりするに非ずして宗教哲學より論ずるものなり神の顯現を研究するの歴史の上聖書の上よりせず理學及び宗教哲學よりせんと欲す神の顯現の道理に適せるとの不可思議論者と雖も不知くの中よ之を承認し有神論に反對の念を忘却し居る時の必ず之を見るべし斯氏の宇宙の表のす所の勢力の全く測知す可からずと云へり而して此の歸結を論ずる者の多く其の消極的にのみ注目するも此の歸結中積極的の分子を記憶せざる可からず斯氏既に宇宙の表のすと云ふ語を吐けり之れ顯現を諾可せる語は非ずして何ぞ之れ不可思

七十二

議中一種の顯現を承認せる者たらずんばあらず然らば斯氏の一種の顯現を承認せるものなり而して天啓の必要を論ずるは當りて天啓の有り得可きことを説く所あるべきなり

神の性に依り天啓の在り得可きの自然の歸結なり不可思議説或の凡神教の如く有心的自覺意識あるを拒否する時の此の点より天啓の自然に出づると拒絶する者あるべしと雖も前回に於て論究せし所の如く果して絶對者にして有心的品格を有し自覺を有するものとすれば此の天啓顯現の出來得べしとの自然の歸結なり自然の宗教も此れありとするにあらざれば決して説明すると能はざるべし而して此等の顯現の絶對者よ依るとするはあらずれば妄誕たるに至らん

此説よ付きて學者たる者の爲すべきとの廣き意味にて觀察をなすべきなり學者の弊の廣からざるにあり人間の性質を論究する者の生理

學物理學等より論ずるの可なりと雖も此の点のみ限り他を顧みざるが如きの不可なり或の心理上より宗教上より觀察するにあらざれば充分人間如何を知る可からざるなり故に此点に於て充分自由を貫徹して可なり此等を廣く用ゆるに於て吾人の妄端誤謬を免ると多からん蓋し誤謬の偏僻より來る凡ての事物は同一は眼を開かざるにあり例へば宗教上の事は關しマイロル及びスペンサーの未だ充分の見識を有せざるなり彼等の下等の者の其く研究す野蠻の生活の如きに至りては其く研究せるも史上に顯表せる所の高尚なる回々教佛教基督教の如きは對する解釋の大はあらずして彼等の觀察の下等は限り高尚なる史上に表はれざるが如きとの解釋中に入れざるが如く種々比較するに於ても中央亞非利加或の南海人民の上帝に對する如何を研究するも基督教の宗教上生活の如きの充分觀察せざるが如し

吾人史上は表のれをる大宗教基督教を知らんと欲せば先づ基督教信者なるを要せず只完全は公平なる學者として觀察して可なり余の確信して理論及事實は基きて神の顯現の道理は適合せるを論せんとす余の此れを確信せるなり

前述の如く凡て宗教の顯現なき者として説明す可らず凡ての宗教中幾分なりとも所謂斯氏の真理の靈を含有せざる者なし而して凡て宗教が此れを含有する丈けの大基本なる神を表現せる者なり神の顯現を示す者なり此点は就きて万有を總括して云ふを得べし顯現の性質を論するよの如何よししても自然と種々万有人心宗教生活の如きを取らざる可らず決して一つを以て完全なりとせず殊に万有の顯現の不完全なり其の表はす所の充分なりと云ふ可からず只人類が已以外の不可思議なる勢力の前にあるを示すのみよしして之れ人類の証明せる

宗 教 哲 學

宗 教 哲 學

所なり而して此れより以上に至りての表示する所なし又ツェルレル氏の語は希臘の哲學の起原の智を求むるは依るはあらず宗教上の必要より起ると云ふも吾れ以上の力は人類の依頼すると云ふ感念及此れに對するの關係を存せんとするの願望より起る者なり之れ宗教上の要求より哲學の起原を開きし者とす又マシウ、アルノルト氏の宇宙間は正義をして勝たしむる者あり之れ史上は表はるゝとなりと之れ専ら史上の顯現なり次は本心上の顯現の有功にして大力を有す詩人の唱導したる者の如き種々の形容を以てすると雖も此の中に眞理を含有するとあるを見る之れ詩人の人心中は神あるを示したるものにして即ち神が人心中に靈性として存することを吾人は示せる者なり此の点は關しての詳細は論せんとするも時間不足なれば爲す能はざるも只一言すべし本心に表はる義務の聲の如何にも吾人心中に在る

者なるも吾人の外部より上方より來る聲の如し例へば心中に一事を思ふ毎に直に聲あり此の成すべし或の爲すべからずとの命令を下す者ありカントの無上命令法 (Categorical imperative) 即ち之れなり之れ常は義務に離れたる者の爲す勿れと時々吾人意志は反して命令を下す者なり此れ絶對者の人心中に於ける顯現なり

顯現の必要なるの神の性質及人間の性質神人の關係如何に就て正當なる心を有せば必然明白あるに至るべし人類の靈を有し自由を有する者なれば此の間自然に正當の關係あるの明白ありシラヘルマーヘルも之を説きフライデル氏も亦之を強説せり人類が顯現を要するの之れ人間の天權なりと云ふも可なるべしパウロの希臘詩人の用語を以て我等の汝の子なりと云へり之れよりして吾人は天權を有すと云ふとを得可し余の獨乙に在るの一友天啓の必用を論ずるに當りて驚

くべきの語を發せり曰く神若し神ならば天啓の必要なるの自然なり若し神之れを示さざれば我神を呪ふんと此の言の不啓なり習ふ可からずと雖も又以て天啓の必要なるを見るべしシモンズチユワードミルのウイリヤムハミルトンを批評して曰く上帝は義務を附會するに能はず我等の何事も神に付て知る能はず神は在て義務の人間に於けるが如くはあらざるべきの當然なりと雖も此れを神は在りとして見ざれば明白ならざるなり此れ顯現なければ神の品格は付きて知る能はずと若し人類は罪なきものとするも此を救ふの必要なきものとするも天啓の必要なり然れども人類罪を犯したる後於て救済の必要ある時は於ては顯現の必要一層大なり罪の救を要するの事實なり既に事實なりとせば道義上の性質は必ず吾人の知るを要し斯くして神を見る以上の人間に對して神の顯現の必要起るものなり

宗 教 哲 學

顯現の性質は關して一言すべし凡ての宗教は於て幾何か發達したる國民の存する宗教の必ず神の顯現なる思想を有す神が自然人間の事件に興味を有すると思へば顯現なければ人類の決して利を受けざるべく斯く神を考ふる思想の僅少の哲學者を除く外は一般人民の傾向なり希臘の語は於て天啓てふ長語あり之れ眼を開く帽子を取ると云ふ如き意味にして希伯來語は於ても同じく他人の耳に對して言ひんとする時耳の近傍の毛髮を開きて通ずると云ふが如き意を含む即ち明白と云ふと云ふ意なり宗教哲學上より論ずるも同じく神及び人類の性質より論及し歸結する時も附合すべし顯現に付きて二個の注意すべき点あり(一)凡ての天啓の超自然的の者なり是れ神自ら表はす者たればあり又淺分か創發的(Original)のものなり之れ知られざりし者を表はす者たればなり(二)人類天性に於て統合する必要あれば凡ての

宗 教 哲 學

天啓の進歩的なるべく凡て天啓の有りし時代人民の開化の性質等に依りて大に制限を受くる者なり之れ天啓の神より人類に示す者にして有限の人智中に入る者たれば人類の天性に適し開化の度は從ふべきなり此の理想の聖書中にも見る者にして天啓は超自然的の者なり神の自然に示す者にして何よか眞理を新たに示す者たり然れども人類時勢は適應するの天啓に必要な要素あり

顯現は確實(Positive)なるべく又漸次たるべし一度ある可からず人類の受け得可き力に從ふものたるべし最後に顯現の永續して斷絶するが如きとなかるべし史上は於ける人類發達の状態の神を支配するものよ非ず人類の神の志は依りて成りたる者たれば神の人類よりて顯現するとの神心は適し理論上及び其性質にも相合する者なり然れども之れをなすや人間の如く支配せらるゝ者にあらずして自らの理

性よ從ふて之れを成せり人が犬に向て何事をか爲す時の犬の性質に適應する様になすべし例へば怒を示すや犬の幾分か之を知るを得可しと雖も若し道義上の音味を含有し居る時の犬の靈に於ては決して明知するべからず犬の善惡如何を知らず犬よく技藝を習熟し得べしと雖も其の時に於て思想如何を示すべからず斯く上より下に示すよ於ては必ず先づ下の性を知るべし性質已上之を顯現する能はざるや明白なり之れ單に顯現に於て然るのみならず神の「インスピレーション」に於ても同様なりとす

顯現の確實なるべしと云ふは此れ眞理を含むべき者なりと云ふとなり人類理性の上より考察するよ其顯現の確實なる制度を有するを要す之れ人類を教育するよ必要よして聖人の如き人物の力の大なりと雖も尙は制度の力の永く存して甚だしき關係を有する者なり基督の

如き若し今日尙生存するものとせば今日基督が創立者として世よ勢力を及ぼせるが如き力のあらざるべし此れの舊約よ於ても同様なり舊約の顯現の即ち之れよ依るものなりモーセの立法犠牲の如き者あり次て預言者等ありて一國の精神的の教導者となりたるが如き顯現あるを見る

顯現の漸次なるべしとの連綿として接続すべきとき只一つ來る時に於ては前後の關係なきを以て能く了解する能はず一時よするも人類の見る能はざる所あり故よ神若し人類を擧げんと欲せば必ず接続せる顯現を致すべきなり

神の自己を表はすよ四つの注意すべきときあり曰く誰を顯すか誰よ顯すか何を顯すか如何よして顯現するや等なり即ち第一の上帝を示す第二の人間に示し第三の神の性質本存實存を示すなり第四之を顯現

宗 教 哲 學

する方法として凡ての方法を用ゆるなり
 顯現の目的の如何なるやの獨斷する能はざるも神の知らしむる爲め
 なるとの明白なるとなり
 顯現の人類文明開化の度に應ずるべし顯現との如何なるやと云ふは
 神を智識上抽象的は知らしむるはあらず之れ人類をして神の如くな
 らしむると云ふはあり人類神の如く成れば成る程神を知ると益多か
 るべし而して眞理を悟するに至らん之れ顯現の本質なりとす然れば
 天啓の性質によりて其の目的をも知るを得可し神を示すの頭は依る
 はあらず只品格は依る者たり然らば其の目的は神の如くならしむる
 はありと云ふを得可し聖書顯現の目的は決して他者と變るとなし只
 其の異点を擧ぐれば聖書の上帝をば人類の教主として顯現するとな
 り凡て万有の學問が示す所を集め來るも此の顯現を見出し能はざる

宗 教 哲 學

なり史上亦然り人類果して大なる教主を有するや否やの此等の者決
 して答ふるを得ず此は向て解説するもの即ち史上に表はれたる
 大宗教基督教の示す所なり聖書中の顯現の異なる此の一点は有し曰
 く神の吾人の教主なりと云ふもの之れ聖書の顯現の特質なり此等
 は依て考ふるも又大事實として宗教哲學上より考ふるも聖書顯現を見
 るべし顯現の有様の人類の有様は依りて變ず人類幼稚なれば顯現亦
 幼稚なり何ぞ之を以て神の卑しと云ふを得んや神の人心は卑くなり
 て表はれたるのみ神の卑きはあらざるなり然らば聖書の何等の書ぞ
 神の教主なるを示す天啓の記録なり之れ聖書に對する基本的の問題
 として此れより他の問題の遙か劣りたるものとして記者の誰ぞ其の
 年代如何等の如き又神の靈の導きを得たりや又誤錯なきや等の其の
 力大なりと雖も此は比すれば遙か劣等は位するを見る若しも此の一

問題さへ確實ならば聖書は永く實存すべく誤謬あるも學術上合同するとなきが如きも此の性質の確實たる以上の安全なり殊も其の顯現の大主眼として基督の十字架上の犠牲となり救を示すとさへ確實ならば他点の如何なるも恐るべきもあらず

第八回

奇跡

奇跡は付て靜かよ公平なる判定を下すの困難なりとす之れ奇跡は二極端論あり以て之れが爲めは奇跡論の大は偏頗は流るればなり此の派の一の自然派と云ふ此れ如何とするも奇跡を信せざる者にして科學等の理由は依るとす此派の物質を機械的は觀測し世界の全く密閉せる組織体をなす者たりとして奇跡の世は存するは世の機と反對し

宗 教 哲 學

萬有の有様は適合せずと見做せり此の派の如きは世界看察法の一方を棒大は失したる者にして世は斯く獨立するものもあらず一方は於ては神學者あり奇跡を證する爲めは必要なりと考へ奇跡の超自然の部を棒大し説明せり此等の神學者連の奇跡の天然以上のみならず天然は反對して出來るとせざれば之れを説明すると能はず世の平常の獨立の形勢を有する者なるも神の立どころは來りて左右し干渉して法則を破る者たりと云ふ即ち奇跡の天然法則を破る者なり之を綻ばしむる者なりと云ふあり此れ兩派共は誤点を有す之れ共に世は對する看察の不可なるは因る彼等の世界の在ると云を承認し神の之を造りしを承諾すると雖も一度之を造りし以上の神のなくとも獨立して成存するを得べしと云ふの点より之を見るを以て基礎を誤りたる者なり此の自然の法則は依りてなる世界の今代も古代も共は上帝

よ依りてなると云ふ眞理を見止めざるよ依るなり此れ等の科學及聖書よ適ふ者よあらず哲學上より之れを説明するにの此等を去りて顧みざるべし

奇跡を正當よ解釋するにの前回既よ述べ來りし所と對照してなすべきを記臆せられたし前述の如く自然派的よ觀察するの決して學術上眞成の要求を満足すべからず只自然的よて宇宙現象をも満足すべからず世よの一絶對者在りて常よ之を固守し保護すると云ふの意味あらざる可からず此点の斯氏も一致する所なるも此れが意志なき者とすれば之よ奇跡を論ずるとの無用なり然れども正當よ宇宙の現象を解釋し有心者に基くを以て正當なりとすれば神及世界よ關する点よ於て奇跡を正當なりと解することを得べし故よ唯物論者の決して奇跡を受けざるべし若しも有心者なりとせざれば實よ受くると能はざる

宗 教 哲 學

宗 教 哲 學

なり上帝及世界の關係を理會するよあらずんば之よ關する奇跡の説も不承認なるの明白なる事實なりとす

奇跡を正當よ解釋する時の万有の理法を破る者と思はれざるなり若し斯くする時の奇跡の正當よ解釋すると能はず吾人は自然説及超自然の關係を知らず又吾人が聖書神學の史上よりして考ふるも万有を以て獨立したる者となすの近代の所見の如し故よ極端論者の説の寧ろ聖書記者の見とも反對するを見る聖書記者の近代の万有よ於けるが如き思想を有せず万有と超自然を説くよ於て此れの内容易よ飛移するものよあらずして自然より超自然よ至る者とせると彼の埃及及西南山よ於ての如し又奇跡の意味よ就きての聖書は漠然たりしを以て神學者が奇跡よ付て論ずる如き判然たる意味の有せざりしなり下てアウガスタンよ至り凡ての事變の同じく皆奇跡なりとしたり故よ如

何なる奇跡よても絶對的よ万有よ反對すと云ふとなく只万有の吾人が知り居る中よ於て或の奇跡よ反對せるが如く見ゆるのみとせり又トーマスアカイナスも奇跡との吾人の知る所の原因以上に神のなす所なりと云へり奇跡を以て全く絶對的よ天然及天然の法則よ反對すると云ふの近世の考なりとす然れども近來進歩したる神學者の此等の説を棄却し天然よ反對する者なりと云ふが如き説の全く排斥するよ至れり既よ前回よ述べたる如く万有及凡ての働作を有心的絶對者の理性に基くとせば神の世界を造り之を棄て置きて又忽然万有法則よ干渉して奇跡をなすが如きと云ふとの考ふると能はざるべし
 次よ如何なる奇跡よもせよ凡て超自然的なるものなし固より奇跡たれば天然よ依るとなしと雖も奇跡も天然の世界よ起るものよして又天然の法則よ制限せらる、故よ全く絶對的の奇跡なるものなく相對

的の者たりとす凡て万有よ起るが如きと奇跡よも起る故よ奇跡の万有よ無關係なるべからずラザロの死して甦ると云ふが如き之れ彼が身体の腐敗せんとするに至るが如きよ於て神は之れが腐敗するを止めて又再び生ける者となしたるなり而して此後の又生理學上に従ふ者なりとす然らば奇跡の前後は凡て物質上の支配を受くる者なりとす奇跡を正當よ解せんとする時の之れも天然の中に起れる一事實なりと云ふを得べし人として奇跡を天然法則を破る者として解釋する時の奇跡が科學及び万有よ於ける種々の關係を忘却するの誤謬を生ずるべしエール大學に一物理學者あり此の人ハ基督教信者ならざるが人間の己れの意を働かして爲す所の事の宇宙の端までも達するが如き變化を起す者なり即ち意志よ依りて腦の分子に變化を起し運動神經よ及して筋肉の働きあり次で物質全界よ變化を及ぼすと云へり

奇跡を説明せんと欲せば此等の眞理をも考察して後すべきなり意志
一變するや器械的に宇宙全界に變動を及ぼす者なり奇跡も亦同様な
るを覺ゆ

奇跡に二類あり(一)人心内部の奇跡即ち「インスピレーション」と云ふ者よ
して主觀的なり(二)外界の事變を生ずるものよして客觀的なり此二者
共よ神の働なりとす以上論述せし所の之れ奇跡に關して消極的の考
定なり之れ自然的説の云ふが如きよあらず爾超自然説の云ふが如き
にもあらず天然の法則を破るが如き者よあらずと斷言せしのみ積極
的より論ずれば奇跡の超自然的作用の一種類よして即ち通常原因よ
因て計る可からざる者なり然れば奇跡と云ふ考の大小人智の程度よ
關係あるを見る之れ通常原因に關する智識の次第よ進歩する者たれ
ば之れも同じく相對的の者たればなり聖書中の奇跡の第一神が顯現

の一部分として用ゆる者とす故よ預言者の口よ依り詩篇の作者よ依
りて表はされたる者の絶對的に奇跡と云ふ可からず又猶太政府よ於
て種々の供物祭司政事家等の心中よ働く心靈精神の神が理性を人間
よ客觀的に示す者たり次で基督となり神の王國を客觀的に立たしむ
るよ於て奇跡を一方法として用ふ然らば宇宙實存の本体あるよ依り
て万有の變化を説明するを得ると同く奇跡も亦神の働なりと云ふべ
し奇跡の万有よ對し神よ對しての關係の他事變と同様なりと雖も只
他事變と異なるの奇跡の殊別に神の顯現に關係を有するとなり斯く
奇跡よ對して考ふるも決して奇跡の價值を下劣ならしむるに非ず又
今後學術の進歩よ依りて自然及超自然の見解を變せんとするに非ず又
も以上述ぶる所の奇跡の意味の決して變化するとなし即ち奇跡の神
が己れを救主として世よ示す顯現の方法として用ゆると云ふとなり

此に付き一例を挙げれば、杭の如き者の種々の観察点よりするを得可し。常識上より之を観察すれば、一の器具なり。然れども之を分析するを得べく破壊するを得べし。又杭に抵抗する力ありと云ふを知るべし。然し乍ら此等の事の通常よりする時の決してなす所にあらず。今若し科学上より観察する時の此を分析せんとし、又之を破壊せんとし、又如何なる勢力ありやと問ひ、又杭に分子あり、分子の原子よりなると云ふ、化学上説明となる。然ども分子、原子の人間思想上の實存物なり。即ち科学が一事物を説明するに必要なるよりして、不可思議なる實存物を假定するに至りたるものなしとす。又哲學上より観察すれば、以上の観察の大に異し、して即ち一体をなしたる者として之を見、又宇宙万物の一物なり。大体を爲すもの、中よ於ける一小物なりとして見るべし。換言せば、絶對者の實存に作用せる働作の顯現なりとす。斯くの如くし

宗 教 哲 學

宗 教 哲 學

て、奇跡も於ても種々の観察法あり。奇跡を上帝の顯現に大關係を有する超自然的の物なりとして見る。とあり。然れば、奇跡の神の顯現の要素たるべし。他より見れば、奇跡の神は屬するも、之のみ神は屬する者にあらず。只神心及思想を實現せしむる必然の方法と云ふべき。手神の顯現の同じく、万有に於ても見るとを得べし。一例を挙げれば、船甲板の上よ立つ時に於て観察すれば、種々の点あるべし。即ち實存の点よりすれば、船よの用事ありとか、又機械の働作等、實際土の用事を見、科学上より見れば、風力の影響、引力の働等、科學的觀察を爲すべし。而して後者の前者と其觀察の所を異にするも、前者必しも後者よ反對する者にあらず。只其の觀察点の異なるのみ。聖書中の奇跡を見れば、奇跡の何にかの証印として顯はると云ふを見る。神の心を示すが爲め、何にかの印を人類に示す者なりと見ゆ。此れ前述の如く、神の顯現に關係せる者なり。英人

ウエインは偶發の論理(Logic of Chance)なる書を著し彼に神學上偏頗心を有する者に非ず其の四百六十頁に於て書して曰く奇跡の何れか一物組織体の一部分として考察する時の全く分離したる一物として考察するよりも大に了解するに容易なるを覺ゆ此れは無神論者として學術の精神を吸収したる者も然り基督教の如き者も於ての奇跡の表のれ來る時の如きの大に然るを見ると之れ人間の理性より觀察するも明白なり此れは統合せんとする者なれば奇跡なる者が一個の分離したる者とすれば信す可からずと雖も何にか一部分となして統合し歸するも近き時の悟了すると容易なると勿論なり哲學より事實は集合し之を統合せんとす然れば奇跡の一分離せず神の顯現の如き大目的に關して表はるゝ者とせば大に力あるを見る此点は付きては歴史上も於ても見るを得基督教の生長する者なり漸進發達するも

宗 教 哲 學

のなり次は基督に至りて今尙は顯現の發達中も存るを見る然れば道理上よりするも聖書中の者の之れと合一するを知る

宗教哲學の上よりは自然派に對し答ふるとを得べく學術家が天然の法則として説明を試むるとの大に可なりと雖も學術家にして之より説明法のあらず之れに依らざれば説明し得べからず又之より他の有り得べからずとなせば之れ眞成の論理にあらず之れ只一部の者を棒大になしたる者なりと云ふべし

宗教哲學の範圍を脱して批評歴史上よりして奇跡を証するも於ての四ヶ條の注意すべき者あり(一)奇跡の比較上其數少し新約舊約聖書よりするも史上よりするも實に少數にして只表はるゝや或る時代或る人民に於てしたる者なり此点より他事と比すれば大に異なるが如し市中を通行するも宗教上の奇跡は聖書中の奇跡より多きを見る然ど

宗 教 哲 學

も基督教中の奇跡の適度として過大ならず(二)奇跡の神の顯現の爲め重大必要として中に往々只奇跡として見る可くして神の顯現は直接に關係を有せざるが如きものを見ると雖も此等の甚だ僅少なり(三)聖書中の奇跡皆同一價値のものゝあらず斯く云へば奇跡を劣等ならしむると思ひんも決して然らず聖書中事の大小なる者あり然れば奇跡の大小ありて上帝の顯現にも異なるべきの理の當然なり(四)聖書中奇跡は皆基督を中心とせり故に基督を中心として之を論ずるの甚だ必要なるとなり

第九回

インスピレーション

凡て此の講義の前回に論述せしものを基礎となす故に今日「インスピ

レーション」を論ずるも前きに論じたるもの之を眞實となして議論す即ち絶對者の有心的なると其の万有との關係及び顯現等の之を眞實なりと假定す

夫れ「インスピレーション」の各個人的のとして聖書記者の上は働さしものも詩人政治家の心中は働くものも凡て之れ「インスピレーション」にして人と人との間の働と同じく有心者と有心者との交通として靈魂の影響と云ふ可きなり

次ぎは奇跡との關係に就て述べん夫れ奇跡の客觀的は神の實存を實現する特別方法なり

インスピレーションの性質 靈魂の作用を爲すもの神なり靈なる神なり七拾五年前フヒターの哲學行われし時の自然宗教(Déism)なるものありて神の世界を造りても創造の後凡て機械的は放任するの

みとなし之れ最も意味の深重なるものとせり又佛學者某神を(Supreme Being)と云ひ神と世との全く分離し神を宇宙外に在るものと爲し只抽象的の之を觀察せり然れども聖書を見るは斯く漠然抽象的の人性の「ヌケガヲ」の如くする時の神を絶對者無限者として尊ぶはあらず之を尊ぶは最も具象的に最も廣く考ふ可きものなり故に神を觀察するは種々の点よりするの必要あり時は之を主宰者とし又造物者とし又審判者とし之を研究するの必要あり「インスピレーション」の神を専ら靈なるものとして考ふ即ち人間の靈中神の靈働を之を慰め清むるが如きを見るものなり神を靈なりとなすの之れ詳論余す所無き如きものにあらず只一方よりの觀察にして道理は依り無限なる思想を成立せしものなり之れ歴史上よりするも凡て人民の宗教及び基督教國以外の詩人及び哲學者も基督教會の教祖も中世の神學者も同じ

宗 教 哲 學

く靈の働あるを認証せり比較宗教より見るも此の働を見る斯くの如く「インスピレーション」の主動者の神なり

次ぎ「インスピレーション」の受動者の人間なり人間の靈性として一種の趣を有するものなり凡て靈魂以外は意志及び其他の事物の決して靈の感覺を受くるとなきものなり舊約書中「エホバを以て萬物の靈となすの當然なるも「インスピレーション」と云ふ時の有心者と有心者との交渉事件なりと見るべし之れ人間に限るも肉体上の械關は對して云ふは非らず所謂人間を人間として觀察し「インスピレーション」の人間に限ると云ふなり之れ「インスピレーション」の天使の如きもあるべきかの吾人人智の及ぶ所は非らざれば之を人間に限ると云ひしなり此の点に付き宗教哲學上神の靈魂の人心は働くと云ふの之れ心理學的研究の結果にして同學は依て其の方法をも知るを得可し

宗 教 哲 學

前述の如く神の顯現及び聖書の顯現を比すれば顯現の成就するよの「インスピレーション」是非必要あり固より神の人間の天性を造りしものなれば神の靈の働の人心に適應しあるとの勿論なり此内衝突のあり可き筈なし神の人心に顯現をなし遺傳の法則等と相適應して「インスピレーション」を降すが如きの明白なり之は依りて觀れば神の顯現の果して人間の顯現たるよの顯現の實體の人間の意志の實體たるざる可からず而して顯現が全く人心中に入らざる間の顯現を成就したる者と謂ふ可からず聖書中顯現の大切なるも全く之は因る換言せば顯現の實體が人間意識の實體となる迄の成巧したるもの非ずと云ふを得也万有の神の顯現なりと云ひ之を客觀的の如く看做も万有の美妙法則等が人類の感情思想となり意識は於て之れが表はるゝ迄の万有を神の顯現と云ふ可からず凡ての顯現皆然り此れ人心中に入

らざる間の決して顯現はあらず此は於て「インスピレーション」の明なるに至らん即ち「インスピレーション」の人中意志は於て顯現せしむる作用なり此を論究するは於て人類の靈魂を論ずる能はずと雖も之は狹隘なる解釋を下す可からず大に「インスピレーション」の事實なるを欲して之れは對するは偏辟となり万有法則等も注意せずして主張するが如きの又誤謬の甚しきものとす
 人心の働作等も「インスピレーション」を参照すれば大に明白なるに至らん顯現の人心の關係たらざる可からずと云ふ時の之れを了解するは大に容易あるを覺ゆ第一人類の腦の一体となして働く者にして決して斷絶して働く者も非ず古代心理學は於て腦髓を分解し之を各部より成立するものとなし凡て人類の欲す故に意慾ありと云ふが如く恰も人体の一個と同じく見做し智も大智なるものありと考へたし

と雖も今代心理學は於ての既よ之を廢棄して人心の一体を爲すものなり物質の分子原子の一体を爲すが如くよあらずして人間として心理學上一體を爲すものなり例へば一思想あり一意慾あり一方ありとするに此等の人間腦髓の一部が爲すよ非ずして全部之を爲す者なり人間の思想感情なり全体の靈性の爲す所なりとするが如し此の心理上の作用に依りて觀察すれば聖書中の「インスピレーション」を單に五感上よ顯現するが如きにあらず心理學上哲學上よりも如何しても五感のみによりて神の眞理を表はすと云ひ決して考ふると能はず固より五管よよりて客觀的よ之を見他人の見るべからざるとあるも吾れ一人より見ると云ふが如きとあり彼の催眠術の如し然れども感覺及び智識に於て製造品の如くよして智識を入れ込む能はず然れども常識の吾人物を見る時の人心以外に出來合の物品ありて之れ人間の

腦は傳わり而して人心の蠟石の如くにして之が印象を取り又寫眞鏡の如く靈魂上よ外部の印象を止むるものなりとす然ども心理學の之を排斥す心理學の説に依れば心内よ出來合の物品あるにあらず五感の作用思想の働きに依て事物を智覺するよあり事物の智識は悉く之を綜合するものありて生ずるなり想像記憶及思想の働亦然りとす「インスピレーション」も亦同様なり神の通常の内にも働き給ふ凡て想像記憶思想意志等の作用一旦豁然として忽ちに活動する場合よの神其中よありて働き給ふものなりとす
 一步を進めて道德上のとを決斷する時よも同様なり又基督教の經驗上よも同様なり凡て吾人の一事を考ふる時の之を神の靈に訴へて成巧する時の神よ對して感謝するの適當のとなり
 第三「インスピレーション」の受る者の異なるよ依て其の働も異なる一個人

宗 教 哲 學

として考ふるも諸君の血管中よの幾百年來の血液流通するを見る某人曰く現今の人民を改良せんと欲せば彼等の祖父母を改良すべしと之れ奇言なるも其の内幾分の眞理あり多く人の一社會をして見るも一個人として見るも永き遺傳及び種々の境遇よりして成る是等の神の「インスピレーション」の有る時に全く消滅するものよあらず希伯來人よの希伯來人の遺傳習慣あり希臘人にの希臘人の遺傳習慣ありて同じく神の靈を受くるも「インスピレーション」の働の異なるを見るべし故よ余の信んず若し希臘人の遺傳習慣あり同じく神の靈を受くるも其の働の異なるを見るべし故に余の信んず若し希臘人をして舊約書を記さめば其の結果の今日の舊約書との全く異なるものなるを加之同じく希伯來人中よも「ポロのヨハチと異り「エレミヤの「イザヤと異なる之れ凡て遺傳境遇の然からしむる所なり然れども「インスピレーション」

宗 教 哲 學

「ジョン」の機械的に速記者をして速記せしむるが如きものなりと云ふ聖書の之れに大反對するを見る以上の説の如くんば之れ「インスピレーション」を人間の拙作と等しくするものなり人間の人間として在る間の斯く拙くのあらざるべく「ユイラン」と聖書の異なる所の此處よあり「ユイラン」の速記者の速記なり聖書の然らず此点に付き宗教哲學の範圍を脱し「インスピレーション」は注意すべき点を擧げん
第一明白なるも往々人の忘却するとの聖書の「インスピレーション」を受けしと云ふとなり之れ形容詞にして「Bible is inspired」と云ふ如き是等の書籍の決して「インスピレーション」を受け得可きものよあらず之れ「インスピレーション」の心靈上の交渉事件にして有心者よ限るものなり即ち「インスピレーション」の實體は人間意識の實體たり心中よ深く入らざる可からずとせば勿論書籍の如きもの「インスピレーション」な

きものとすべし之れの聖書發達の踪跡も見るべし始めの種子の如きも次第よ發達し幹となり花と化し實と結びたるものよして廣く「インスピレーション」を受くるもの、次第に進歩すれば理論上大に力を得るに至るべし前述の如く奇跡を論ずるに分離したるものとして知る能はず只大体を爲したるもの、一物として顯る、ものとして考ふる時大よ信ず可きものを増すものよして「インスピレーション」の接續せる大体の一部分として見るべし

第二「インスピレーション」と誤なきと云ふ事の全く別事なり誤謬或の正確との事實上の問題なるが故よ「インスピレーション」を基礎として徹頭徹尾誤謬なしと云ふを得ず

第三聖書中の「インスピレーション」他の「インスピレーション」の區別如何或の度に於て異なるや或の類よ於て異なるや之れよ付きての種々

學者の議論するも大体の空論たるよ過ぎず度よ於て異なるにせよ類よ於て異なるにせよ之を論ずるの言語の上よして其の眞あるを認めず

第四聖書中の「インスピレーション」の特質の聖書の顯現よ附合するとなり現今神學上「インスピレーション」の顯現の問題に附屬し居るものなり聖書の神の靈よ依て動かされたる記者なるや否やと云ふとあり即ち聖書は上帝を人間の救主として顯現するものなりや否やと云ふよあるなり而して聖書の記者の神の作用の最も寛大よして狹隘ならずとせり神の働きの一種に限らると云ふが如きは彼等の眼中よあらざる所なるが故よ大將も職人も同じくあると考へたり固より是等の「インスピレーション」の宗教上のものにあらず宗教上の「インスピレーション」の彼等の「インスピレーション」と意を異よするかの明かならざれども兎も角聖書の「インスピレーション」の神を人類の救主として顯

すものなりと云ふ

第十回

人間の性質

今日の人類の性質を論究すべし最初一言すべきは近世心理學の進歩より智識の進歩増加甚しきが故に此問題よりも大問題を多く引起すべきは明白なりと云ふとなり然れども諸君に幾分の利益あらんが爲に余は前回に於て論述したる哲學上は適合する人性を論せんとす此れ決して無用の事とあらざるべし然し乍ら此に對して充分に研究するに到底能はざる所なり顯現及インスピレーション中に一種の人性を含有せるを見る即ち人類の神を知るの力あり又神と心靈上の交通をなし得るものと解釋するが如きなり又有神哲學の靈魂不滅を

説き殊に上帝の正義仁愛の如きは人類靈魂不滅に關係する者なり故に人類死して後にも意識を有すると云ふ信仰の有神的は宇宙を解釋する哲學に基く者なり人性を研究せんとするに當り第一人類の天性を器械的に解く學説あり此説の學術上大結果を構成せし者として心理學上等より大に之を研究したる者なれば此器械的學説の學術上の大結果と云ふべし然れども此の器械的學説を論ずるに當り人類の靈性を非難するに至るが如き有様となりたり先づ此の批難の正常なりや否やを論究すべし而して余は有神哲學理論上最も適合すべき靈魂不滅説を建設せんとするなり此に就ては充分なる證據を擧ぐると能はず故に諸君の余が多年の研究に信を置かんことを望む元來余は何人の曰く云々と言ふが如きを以て論基となすの好まざる所なりと雖ども時間の短きの已むを得ず之をなさしむ今數年來研究の結果を述

宗 教 哲 學

べんは極端より云へば器械的觀察の凡て心上の觀表の物質の顯現なりと言ふはあり物質のみ實存し分子の作用よりて心は作用ありと言ふに至るべしハックスレーの此に就て靈魂と肉體の働作は關係の蒸氣機關と煙の如き者なりと言へり煙は少しも船體をして進行せしむる力を有せず只た之をして進行せしむる者の内部器械の運動より然れども煙は之れ其の船内部器械の運動せるを示す記号なり靈魂の働きと肉體の働きの恰も此の如く内部働作を肉體の示す者なりと言ふにあり此の説の一時大いに行はれたりと雖ども今日の既は陳腐に屬す今日より以前英國は行はれたる連想心理學(Association)の如きも既に古物となりミル父子及びメイソンの心理學も用ひられざるに至りしが如く前述の極端器械説も今日の凡ての事實を説明するは足らざるものあり、

宗 教 哲 學

第一 器械的觀察説の大い靈魂の働作は結果を生ぜり例せば腦の働作の部分を定め全く分業を有する者とす之れ人相學骨相學の基なり然ども此等の陳腐に屬したりしも次で千八百七十二年日耳曼の二學士フリツ及ベツケヒの實際上より外科的作用をなす際腦の或部分を切斷する時の身體の或る部分が運動することを知りたり是より先き英佛の如きの骨相學に反對し腦の全部よりかりて働きをなすと信じ佛人フルリーの如きの之れ部局の如きものあるとなしと云へる有様なりき然れども二人の學者の大は種々動物は勇氣等を通じて腦髓感能は凡ての部局定まれるを決定せり此説去る二十五年間大に進歩して此を信するもの數千人の多きに至れり然れども此の部局を定むるの説と雖ども多くの感覺の作用に關係するを見る例令へば眼の働作温暖を感ずる皮膚の働き等の如き運動及働作の部分に關係する部は

於て此の部局の判然せるを見る而して五感中よ於ても嗅味の二管の如きハ大いよ不明なるを見る故よ今日高尚なる思想よ至りてハ部局の分離し居ると明白ならず彼の信仰の如き神よ對する觀念或ハ數學上の働の如きよ至てハ心と腦隨問よ元固の明白よ關係せるとを知らざると過去五十年前と同様なり然れども(Motive)及び働作の作用ハ部局ありと云ふを確むる今日の時代となり居りて(Psychophysics)精神物理よ於ては刺激を與へる分量及種類を論究し之れより生ずる感覺の強弱性質を定め五感上又身体上の刺激を論及し感覺を統合し此に對する有様及法則を定むる者なりとす然れども尙ハ什分簡單なる者を取りても之れよて説明すると能ハざるあり例令ハ事物を知ると云ふも之れ物質及物理上より全く説明すると能ハざるが如し

第二 心の作用に時間を要するを定むる者なり換言せば刺激が常体

に表ハる、迄よ時間を要するべしと而して近時に於ても時と言ふ觀念ハ決して説明するべからざるとにして甲の感覺より乙の感覺が嗣ぐと言ふも未だ以て時間の觀念の起原を説くに足らず石の中よ於て甲乙丙丁等と變化續くも石の中よハ時の觀念なきが如く只腦中の働作變遷の結果よありて時間の觀念を出すとなし

第三 睡眠術(Hypnotism)ハ靈魂を裸体としたるが如く神によりて作られたる儘の表示なり然れども此の睡眠術の驚くべき程物理上よ於て説明する事能ハざる点の増加するを見る之よ關し佛に二大學派あり寧ろ世界の二大派とも稱すべきか一ハ巴里派と言ひ他を南スイ派又たシヤルユール或ハボルンハイム派と云ふ此の術よ關して研究すると多くして統計表よ依れば爲めよ千二百冊の書冊を發せりと云ふ程なり南スイ派ハ大よ進歩し勢力を有するが如くしてハーバード大學教授

シエームスが万国心理學會より出でたる時の風景の心理學者の多く南
スイ派の傾き居るが如しと此の學派の爲す所の他人に何事か他方よ
り思ひ付かしむるとよして物理上より爲すよあらず心理上より之を
説明し精神によりて身体上に大關係を及ぼさしむると云ふ説なり現
今社會の傾向の物質の驚くべきを示すと同時よ心の驚くべきを表
示す又發狂學あり罪惡學あり共よ生理上より説明し又腦髓學なる者
あり生理道德上の關係等を學術上より説明せり然りと雖ども此等の
者の決して純粹なる器械的を以て説明する能はず又精神物理上意志
の作用の如きも物理上より器械的解明の能のざる所なり今日の實驗
法によりて種々説明を下し意志へ關しても大に説明する所あるに至
りたりしが此にも都合よき事實なきのみならず反對の事實少しとせ
ざるなり例せば人のマタ、キするや之れ意志の働きに依りてなすと

宗 教 哲 學

を得べし又た眼よて二色を見んと欲し或の何處か一定点よ視点を集
むると云ふも皆な之れ働作よ基せずんばあらず勿論注意を引き去り
て壁の如きを見る時よ上より下、下より上に波動の如き働きあるべし
と雖ども此等の事實を集會し兩者の例を統計するよ器械的の方を証
する事實あるも又た反對の事實も什分あり故よ此等高尙なる説を取
りて加ふるよ學術上の結果を以てすれば大よ可なるべしと雖ども若
し己れに都合よき部のみを取りて他を捨つるが如きの大いよ不可な
り今日の狀況の兩者相對して一の事實を一方の器械的説他方の心靈
説ありて何れも之を説明せんとし彼此歸決よ兩者相對兩陣挑戰の有
様なり然れども哲學上より考ふれば極端なる器械的は妄進不稽なる
を見る例へば彼等往々一神經なる者を説く而して神經の存する事の
如何して知れりや曰く哲學的信仰の基本に基する者なり之れを信す

宗 教 哲 學

宗 教 哲 學

るや誰れか之れを見たる者あらざるべからず此等の全く心靈上の作用よして観察すると云ふも解釋すると云ふも此れ心靈上の働きにして他物をも知るよ至るなり若し之れなしと云ひ、脳髓學者の基本の破れたる者なり今日物質の無き者又の心靈の無き者として説明する兩者を比較するよ前者の其困難大いよ少なしとす例へば前述の脳髓及び神経の存在を確かなりと云ひ之れ過去の事よして誰か見ると云ふも之等を見たる者なしと云ふも此れが過去と同一なることを知るの之れ推論よして心靈の働きなり此等統合する働きの決して物質に於ての存在するを見ざるが如し

今靈魂不滅説に立入るよ先だちて一言すべきの第一唯物派の批難の充分ならざるの明白ならん第二器械説の成立する能はざるに至る之れ事實の共に平均する傾きあり而して其説明の易きを以て知るべし

然れば此よ於て靈魂不滅説を立つるの基礎の充分成立せる者と云ふべし

宗 教 哲 學

余の靈魂不滅を天性より論ずると克はず又到底何人も能はざる所なり宗教上に關係するとなき單に心理上哲學上より云ふ時は靈魂不滅を解明せんとするの困難なりと雖ども若し上帝の存在、上帝世界の關係等を以て未來を説明するの充分なるとの明白なるべし之より他の決して明白なりと云ふ可らず只有神哲學よより世界を倫理的に觀察して上帝を信仰し以て未來を信する道徳上理由の生ずるのみ此よ至りて余の基督教よ依て靈魂不滅を証するに至ることを切望す此よ關して歴史を閲するよ曰く古に對するの事實漸く深く人類思想の道理よ適するに至らば此よ不滅のとも漸く道理に適合するよ至る又聖書よ就きても最初の不明なりしと雖ども基督降誕以後益々明白となりバ

ウルの如き己の中にある基督の証を以て靈魂不滅の彼の信仰の一部分となり基督に對する信仰の未來に對する信仰と兩々相待して離るべからずと思ふに至れり此の高尙なるを見る時のこれより人間の期望は適應しあるを知らん而して此道理ある信仰此期望の人類に力を與ふる者たるなり若し此を去る時の人類の絶望の域に陥る者たるべし

第十一回

宗教上の生活

今日の人類宗教上の生活を述ぶるは於て前回既に述べたる世界神及人類の關係等も就き宗教哲學上よりの歸結も基きたる眞理も適合したる人類宗教上の生活を研究せんとす今此宗教上の生活の大意の之

を特別なる意味にて用ふべし之を論述するに先ちて最初二回の講義も就き述べたる主義も關し一應諸君の注意を仰ぐべし哲學の決して實際上の生活より分つべからず哲學の定義も於てプロトローはソヒヤ即(Wisdom)智慧と云ふ意なれば之を研究する者の智慧を行爲上に適用する者たるべし又ヒシテの語にも哲學の人類の家具の如きもあらず故に決して捨取するを得ず即ち人類の有する哲學の種類も其人物如何も關すると云へば今之を反覆して人類の生活如何の其人の神及び人類に對する哲學説如何も因ると云ふ可きなり

本日論述すべき大体の問題の前回論究せし神の觀念及神人の關係よりして自然に流出する人間實行上の主義如何を知るにあり哲學史を驗するも哲學者中此も關しての大なる異説なくプロトローの此實際上の行爲の説も今の有神論者の説と異ならず之れ實存者は有心の道義

宗 教 哲 學

性を有する者として考ふるより出する者なればなり眞實なるべし勇敢ならざるべからずと云ふ如きの如何なる哲學者も同様にして只だ其異なるの通用の方法よ於て生ずるものたるのみ只だ如何なる分量を以て配合せば善人なるべきや或の如何よせば正當なる宗教的人物となるべきやよ付ての異説あるべしと雖ども其大躰基本に於ては差違なし歴史上よ於て人智開發の如きの常に特別なる点より一般普通なる点よ至るべきを見る普通道徳も亦然り始めの風俗習慣等によりて特別ある者なり敵に對し家族よ對し同胞よ對し又た婢僕に對する關係如何の如きの一般普通の原理によつて推す者よあらず然れども之より發達して一般の原理を成さしめんとし終よ進んで人と人との關係如何との問題に向ふ此と共に宗教上の發達あり而して宗教上の發達と倫理上の發達の密着なるものよして倫理の宗教上發達の如何

宗 教 哲 學

は關係す之れ歴史上証明するを得べし而して道徳の如きの大に之と關係を有す故よ一箇としても人類一般よりするも倫理上の一種段階よ居る者の之よ適合する宗教上の段階よ居るべし而して天然よ又た史上に表はるゝ、宗教上の現象及神の攝理を表はす者を理論上より判定する者の之れ宗教哲學の本職なりとす余の此事に關して長言せず之よりして前進すべし今近世學理と大に反對し殊よ器械説と反對する所の最も困難なる祈禱論を述べし此よ就て四箇の点を論究せん

(一)如何なる人も苟も道徳を解する者なれば祈禱が物質上及心理上の生活の結果たる無限なる方便なりとの信せず元來世に無限なる方便なる者なし既に方便と云へば中よ有限の意味を含む世界の無限ならずとせば此内よ無限の方便なきの明白なり故よ宗教上不徹よ陥るとなくして神の無限の方便を有せすと云ふを得べし又た祈禱によりて

何等のことも得ずと云ふが如きの信仰せられざるのみならず不道徳となり宗教上神を汚し神を誤り理論上よりすれば妄誕となり神學上より云へば甚だ危険なりとす

(二) 人類への祈禱する所の刺勸あり之れ宇宙に於ける一大事實として宗教上及哲學上之れを論ずる者の此を承認せざる可らず之れ凡ての事實を統合する者なり然れば人類の祈禱せんとする天性あるのありストートルの人類の哲學を究めんとする天性ある者なりと云ふと同様にして此く人間の祈る可き天性を有することの缺く可らざる處なり而して歴史進歩に於ても掩ふ可らざる所あり先年物理學者の祈禱の効驗を實驗的に驗したるが此時に於て祈禱の効驗なしと云ふ歸決たりとするも實際上に關係するとなしハギンソン及教授シェームスの如きの學說と人類實際上の說と衝突すれば學說の倒れて經驗上の事

宗 教 哲 學

實の存しをると云へるが如く理論上不可なるも實際上に關係するとなし而して祈禱の實際上必然行はる事實にして如何に哲學說も人性の實際上の事實に關する哲學說も非ざる者の破裂すると云ふが如きに至らん

(三) 祈禱の天性の事實の意味あることを承認し禱りの天然より生ずる事實を意味するをも承認すべきなりスペンサー氏の云へる万物眞理の靈なり如何に誤謬なりと雖も之れが長く人間中に存する者なりとせば此中に眞理の靈あるものなりと然らば祈禱は事實及之れより生ずる結果中に於て眞理あらざる可らずとの理論上明白に云ふを得べし故に之の趣味を研究するは之れ當然の事なり之れに關して器械說の往々之れを批難す然れども人類の宗教を有する天性ある者として天然よりして説けば宗教上の意味の何か眞理を含むべし又眞理

宗 教 哲 學

を含むと云へば之れに世界の物体にも何等かの關係あるべし學術の何ぞ之れが假定する者の何ぞ之れ凡て心外に有する事物及意味が直ち理によりて假定するものとせり若しも此の假定を取らざれば之を理によりて説明するべからず然らば此に於て世の夢となり學術の夢の夢とならん吾人凡ての事實は依て眞なりやを定むるの必ず爲すべきとよしてアリストートルの原因を四分し第一、二、三を以て充分ならず必ず四をも知らざるべからず第四の則ち終局原因なりとせり人間を小宇宙として万有を大宇宙とし是れ如何しても人類生活の永く思ひる、現象の何しか之に適合するものありと云ふを假定せざるべからず一度小宇宙と云ふ何物か大宇宙と對持するものあらざるべからず而して若し之を看過するが如き時の哲學の本分に反するに至る

宗 教 哲 學

宗 教 哲 學

第四 祈禱の人類心理上の變化及物理上の變化の連鎖中に於て効驗ある一要素なり心理上精神上に於て變化を來たする祈禱の効力あるの事實なり之れ祈禱反對者も拒絶すると能はざる所心理上より云へば内界の變化の一として心理上に於て結果を及ぼさざる者なし一の意欲あるか之れが爲めに精神上に變化を起すべく若し心理上變化あらば品格上變化を生ずるや明白掩ふべからず然れば從ふて習慣上にも變化を來すべく精神上習慣の變化するに從ひて其分他人に對して爲す影響も變動を起すべきの事實なり祈禱の單に精神上に變化を生ずるのみならず物質上變化の原因ともなるべし之れ近世學術上の益するると多く顯微鏡分光鏡の如き發明に依りて生ずる所の如きより或の其他科學上の器械によりて心理上との關係益々明白となりたり近代心理學の發達によりて或る時間内に麝香の發する蒸香の分子とし

宗 教 哲 學

ての僅少なりと雖ども人間の感覺上よ及ばず影響の甚だしく又化學上一種の臭味強き者あり之れが $\frac{1}{1000000}$ (ミリグラム) を空氣二洒するよ依り嗅氣を感せしむるよ足ると物質僅少なりと雖ども精神上よ影響を及ばずを知らん又睡眠中の小兒の眼蓋よ雲影の當るや必ず眼蓋の分子に變化を起す力あり故よ其小兒の意志よの明白ならざるも其神經に變動を起し何等かの影響を受けしなるべし又反對よして精神上より物質上よ於ける影響如何と云ふよ睡眠術の如きありて一箇人の意志が他人の意志よ關係し他人を思ふまよなし得る者なりと云ふ又余が腕を動かすも之れを動かさんと思ふ考を心中に起すも忽ち身体上の分子に變化を生せざるなきは明白なり之れ如何なる微弱なる陰影及想像と雖ども之れが心中に起らば其結果として見るべからざるの少許の者も必ず神経系統の上よ變化を起すの事實なり學術

宗 教 哲 學

の吾人よ教ふる所のこの人類が万有より分離し居る者よ非らず一言一行一思一慮も密着なる關係を物質界よ有するを教ふ或の學士の一度手を動かすや宇宙全体の有様が變ずると云へり然れば今よりして世界を動かすを得べし手を一度擧ぐるや爲めに世界よ働くべし一度腕を運動するや此の腕の爲めよ意志の爲めに腕の分子よ變化を起し手を動かすや此筋肉の収縮あり運動よよりて身体上物質の方向を變ず然れば其結果の分小の生活よ及び次で物質全体に及ぶよ至る而して此の變動を來すや物質の不滅よして永久存在する者たれば其結果の永久に存在するならん然れば之れが爲めよ全世界を動かすを得んこの學術上の事實なり若しも我れ世界を動かすを得るとせば腕を運動する者の我れなりと云ふを得ん之を決して學理上批難すべきよあらす今上帝及人間の性質上帝と人間との關係より見れば腕を動かす

宗 教 哲 學

自由意志ありと云ふも不可なかるべし

反對論者の奇跡を説明するよ於て大に反對して若し此の如き者あら
ば万有の破壊するべしと云へりと雖も祈禱と同じく學理上の眞理を
以てすれば世界を動かすことを知らん以上論じ去り論じ來りし如くな
れば有神哲學よりするも祈禱の道理に適合せるを知らん而して同時
に祈禱は反對の理の未だ充分ならざるも知るべきなり又「インスピレ
ーション」顯現等より論ずるも祈禱の決して道理に反對せる者も非ず
以上十一回の講義の宗教哲學より研究せる者よして幾分か諸君の裨
益あらんことを欲して注意し以て爲したる者なり余の最後諸君の熱心
傍聴ありしことを感謝す

明治廿五年八月十二日印刷

(正價十二錢)

明治廿五年八月十三日出版

筆記者

淺野源二郎

京都市上京區相國寺門前町一番地
同志社寄留

大坂市西區土佐堀三丁目
三十八番屋敷

發行兼
印刷者

今村謙吉

大坂市西區土佐堀三丁目
三十八番屋敷

發行所

福音社

大 賣 捌 所

東京出雲町	警 醒 社
同 銀座三丁目	十 字 屋 館
同 築地二丁目	一 二 三 館
大坂西區京町堀四丁目	吉 東 書 店
同 北區老松町二丁目	岡 本 光 塩 堂
同 西區新町通四丁目	矢 部 晴 雲 堂
神戸元町四丁目	福 音 舍
京都同志社前	クリスチヤンボード
仙臺市新傳馬町	大 塚 書 店
函館相生町	福 音 舍
備前國岡山上西川町	復 生 堂
伊豫國松山唐人町	八 木 治 作
播州姫路本町六十八番地	長 川 虎 次

小崎弘道君序 増野悦興君著

●英 國 清 教 徒 紀 事

定價金二十錢

本書は日頃英國清教徒の主義精神を欽慕せる著者が筆に成れる新著としてエリサベス女王治世の末期トマス・カートライト等が歸國の事より始め、クロムウェルの死後王政復古の時に至る迄前後凡そ百年間英國の政海狂風怒濤の中真ま立ち漂手たる節操を維持し、壯烈なる動作を爲し、姓名を天の生命簿に留め、芳名を千載に垂れたる彼の清教徒の士の行事を叙したる一書なり。今や我社會政治の運動是れより將さる頻繁ならんとするの可らざる秋、當り先づ此書を一讀し、先哲の氣節、行狀を學ぶ、あはば以て名狂を處せざるの波瀾の中に能く其主義信仰を維持し得て、社會清化の大目的を達し得るに庶幾からんか。將た教外の人士と雖ども、之を一見せば、必ずや眞成なる基督教的大丈夫たる者の伯夷叔齊のみならず、所謂百世の下其風を聞き、頑夫も廉に懦夫も志を立つる者獨り古國民の友批評 余輩の固よりカトリックの如く、クロムウェルを神明するに非ずと雖ども、竊かよ青教徒獨立黨の事業を感歎して、措かず益々此英國内亂の記録が編輯せられん事を希望す。今著者増野氏が此英國清教徒紀事を著はせるを見るに、ヒウリマ(清教徒)の起因より、クロムウェルの長逝までを簡明快活記述して、隠よ歎美の意を其中に寓す。亦是れ此内亂の記録を編輯したる一書なり。

●新 嶋 先 生 言 行 錄

定價二十錢 郵税 四錢

本書の巻首に其小傳を掲載し、言行録の部に至りては、其幼時の有様より其海外に在るの日、其臨終の時に至る迄事に觸れ、物に感して、万世の訓戒とせられるもの、金言、逸事、言行數百件を網羅し、附するに、高吟の詩歌數十首を以て、す先生を知らんと欲する人、先きの先生傳と併せ購讀せば、思ひ半よ過ぐる處あらん。

同志社學院教授デビス氏、村田勤氏、松浦政泰氏 合譯

●新島襄先生傳

正價 三十錢 郵稅 六錢

古來大人傑の言行録の世人を補益するや大なり殊に君子の言行に至りては万世の
下人をして感奮欽慕措く能はざるものあり本書は故新島先生の高潔清廉なる生涯を
畧記したるものにして先きデビス教師英語の著あり今回村田松浦兩君の合譯せら
る、處なり文章平易明確先生が耐久堅忍の志望と沈重温厚の品性超然として紙面に
溢れ高尚信實の行為彷彿として見るが如し讀返の際不覺案を打て感奮蹶起せしむる
もの幾度なるを知らず本社幸に發賣の光榮を得たり江湖の諸彦願くは一本を購ふて
座右の師となせ信仰の友とせよ

宮川經輝君序 望月興三郎君著

定價十五錢 郵稅二錢

●家族主義女子教育

著者曰く「我輩理想の家庭如何と問ふ者あらば答へていん全家眞神を畏れ道徳
を貴び又學問を重じ夫婦相和し子女和睦み怒聲なく怨言なく……相扶け相勵まし
平和の氣溢れ眞理の光輝き一堂の中熙々雍々として和樂し外來の人をして春日百花
の園に遊ばしむる快感を與ふる處これなり」と此清福なる家庭の多少の國消長の
係る處深且大なるを悟り紛々たる女子教育界別は一生而を開き静か家族主義教育
を實施する者之を神港松蔭女學校なりとす今や著者が其抱負する所發して此書とな
る章を分ちて緒論、家庭と學校、前代の女子教育、當代の女子教育、家族主義女子教育
結論の六章となし具に家族主義女子教育の必須を切論せり荷も子女教育の任にある
の士の云も更なり娘妹を持てる父兄の一讀せざる可らざるの良書なり

●増補二版成瀬仁藏君著 婦女子の職務

定價十錢 郵稅二錢

發兌

福音社

19
306

6

19
306

013633-000-8

19-306

宗教哲学

ラッド/述

M25

ABA-0102



